

報告書【詳細版】

令和5年度「学力調査を活用した専門 的な課題分析に関する調査研究」

調査研究テーマC

「令和5年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問
紙調査（うち、挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、
幸福感等）の結果を活用した専門的な分析」

2024年3月

三菱UFJリサーチ&コンサルティング

世界が進むチカラになる。



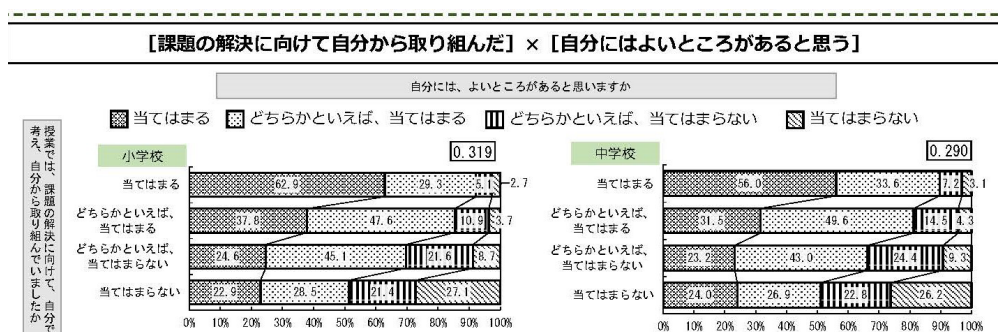
目次

0. 本調査研究の目的
1. 児童生徒の「主・対・深」「総合・学活・道徳」の取組状況と「自己有用感等」との関係性の分析
2. 質問回答の因子分析
3. SESや学力を統制した分析
4. 令和4年度調査と令和5年度調査の比較による分析
5. まとめ

0. 本調査研究の目的

本調査研究の目的

- 文部科学省・国立教育政策研究所「令和5年度全国学力・学習状況調査の結果」
(https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23summary_zentai.pdf) にあるとおり、調査結果から、主体的・対話的で深い学び（主・対・深）に関する設問と児童生徒の自己有用感等に関する設問との間には相関が見られることが明らかになった



(出典) 文部科学省・国立教育政策研究所「令和5年度全国学力・学習状況調査の結果」

- また、総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳（総合・学活・道徳）に関する設問と児童生徒の自己有用感等に関する設問の間にも相関が見られた
- このことについてより詳細に分析するため、本委託調査では令和4年度および令和5年度の「全国学力・学習状況調査」の児童生徒質問紙を用いて、児童生徒の「主・対・深」や「総合・学活・道徳」の取組状況に関する質問項目（カテゴリ7・8）と児童生徒の「自己有用感等」に関する質問項目（カテゴリ2）との関係性をより詳細に分析する
 1. 個別カテゴリ間の相関関係を確認し、質問カテゴリ別の関係性の違いを考察する
 2. 質問カテゴリ2と質問カテゴリ7・8のそれぞれについて因子分析を行い、質問項目の分類を行ったうえで相関を確認する
 3. 学力や社会経済的背景（SES）が、児童生徒の取組状況と児童生徒の自己有用感等の双方に影響を与えることによる「交絡」によってバイアスが生じる可能性を考慮して、学力やSESの影響を統計的にコントロールした分析を行う
 4. 令和4年度と令和5年度で児童生徒の取組状況が進展した学校とそうでない学校の自己有用感等の伸びを比較することで、学校固有の時間を通じて変化しない要因（教育熱心さ等）の影響を排除した分析を行う

参考：主な利用変数の一覧（令和5年度児童質問紙 ※小学生）

カテゴリ番号	カテゴリ	質問番号	質問
2	挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等	4	自分には、よいところがあると思いますか
		5	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
		6	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか
		7	将来の夢や目標を持っていますか
		8	人が困っているときは、進んで助けていますか
		9	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
		10	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか
		11	人の役に立つ人間になりたいと思いますか
		12	学校に行くのは楽しいと思いますか
		13	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか
		14	友達関係に満足していますか
		15	普通の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか
7	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	32	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか
		33	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
		34	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか
		35	5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか
		36	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか
		37	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか
		38	授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか
8	総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳の取組状況	39	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか
		40	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか
		41	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか
		42	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか

参考：主な利用変数の一覧（令和5年度生徒質問紙 ※中学生）

カテゴリ番号	カテゴリ	質問番号	質問
2	挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等	4	自分には、よいところがあると思いますか
		5	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
		6	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか
		7	将来の夢や目標を持っていますか
		8	人が困っているときは、進んで助けていますか
		9	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
		10	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか
		11	人の役に立つ人間になりたいと思いますか
		12	学校に行くのは楽しいと思いますか
		13	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか
		14	友達関係に満足していますか
		15	普通の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか
7	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	36	1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか
		37	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
		38	1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか
		39	1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか
		40	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか
		41	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか
		42	授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか
8	総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳の取組状況	43	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか
		44	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか
		45	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか
		46	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか

参考：令和5年度学力調査のサンプルサイズ

■ 小学校・中学校別、利用変数別に有効回答数を確認すると、いずれも約90万人以上のデータが利用可能である

小学校

質問番号・カラム内容	回答・値ありの人数	NA、その他、非該当など	回答・値ありの割合
質問4	992,174	10,911	98.9%
質問5	991,694	11,391	98.9%
質問6	991,815	11,270	98.9%
質問7	992,097	10,988	98.9%
質問8	992,013	11,072	98.9%
カテゴリ2 質問9	991,996	11,089	98.9%
質問10	992,005	11,080	98.9%
質問11	991,999	11,086	98.9%
質問12	991,784	11,301	98.9%
質問13	991,538	11,547	98.8%
質問14	991,318	11,767	98.8%
質問15	991,235	11,850	98.8%
質問32	967,405	35,680	96.4%
質問33	991,469	11,616	98.8%
質問34	991,431	11,654	98.8%
カテゴリ7 質問35	991,459	11,626	98.8%
質問36	982,517	20,568	97.9%
質問37	991,444	11,641	98.8%
質問38	991,469	11,616	98.8%
質問39	991,653	11,432	98.9%
カテゴリ8 質問40	991,260	11,825	98.8%
質問41	991,286	11,799	98.8%
質問42	991,166	11,919	98.8%
都道府県コード	1,003,085	0	100.0%
地域規模	1,003,085	0	100.0%
学校の学級数規模	1,001,519	1,566	99.8%
正答数_国	992,623	10,462	99.0%
正答数_算	992,718	10,367	99.0%
質問22 (自宅の蔵書数)	991,917	11,168	98.9%

中学校

質問番号・カラム内容	回答・値ありの人数	NA、その他、非該当など	回答・値ありの割合
質問4	925,120	26,543	97.2%
質問5	924,347	27,316	97.1%
質問6	922,660	29,003	97.0%
質問7	920,377	31,286	96.7%
質問8	920,114	31,549	96.7%
カテゴリ2 質問9	919,689	31,974	96.6%
質問10	919,160	32,503	96.6%
質問11	918,531	33,132	96.5%
質問12	918,142	33,521	96.5%
質問13	917,803	33,860	96.4%
質問14	917,227	34,436	96.4%
質問15	915,941	35,722	96.2%
質問36	898,271	53,392	94.4%
質問37	924,267	27,396	97.1%
質問38	923,244	28,419	97.0%
カテゴリ7 質問39	922,657	29,006	97.0%
質問40	906,718	44,945	95.3%
質問41	920,433	31,230	96.7%
質問42	919,246	32,417	96.6%
質問43	924,336	27,327	97.1%
カテゴリ8 質問44	923,939	27,724	97.1%
質問45	922,538	29,125	96.9%
質問46	922,032	29,631	96.9%
都道府県コード	951,663	0	100.0%
地域規模	951,663	0	100.0%
学校の学級数規模	951,556	107	100.0%
正答数_国	929,799	21,864	97.7%
正答数_算	930,199	21,464	97.7%
正答数_英	930,526	21,137	97.8%
質問22 (自宅の蔵書数)	917,053	34,610	96.4%

1-1. 児童の「主・対・深」「総合・学活・道徳」の取組状況と「自己有用感等」との関係性の分析（R5小学校）

児童生徒の「主・対・深」「総合・学活・道徳」の取組状況と「自己有用感等」との相関（事前調査分）

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の児童生徒質問紙調査で質問した項目同士の相関を確認したところ、以下のカテゴリ間において、他の組合せに比べて高い相関があることが明らかになった

カテゴリ2：挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等（自己有用感等）

カテゴリ7：主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況（主・対・深）

カテゴリ8：総合的な学習の時間、学級活動（※）、特別の教科道徳（総合・学活・道徳）

（※）特別活動を構成する学級活動

【文部科学省 提供情報】

児童質問紙調査の全ての質問項目同士、生徒質問紙調査の全ての質問項目同士の相関係数を確認したところ、以下のとおりであった

（小）児童質問紙調査 0.2未満：57.7% 0.2以上：42.3%（うち0.3以上：16.0%）

（中）生徒質問紙調査 0.2未満：66.6% 0.2以上：33.4%（うち0.3以上：10.9%）

しかし、次のカテゴリの項目同士の相関係数は、70%以上の組合せで0.2以上となり、0.3以上となった組合せも約15～25%見られた

【カテゴリ2「自己有用感等」×カテゴリ7「主・対・深」の質問項目同士（12項目×7項目）の相関係数】

（小）児童質問紙調査 0.2未満：25.0% 0.2以上：75.0%（うち0.3以上：25.0%）

（中）生徒質問紙調査 0.2未満：27.4% 0.2以上：72.6%（うち0.3以上：19.0%）

【カテゴリ2「自己有用感等」×カテゴリ8「総合・学活・道徳」の質問項目同士（12項目×4項目）の相関係数】

（小）児童質問紙調査 0.2未満：22.9% 0.2以上：77.1%（うち0.3以上：14.6%）

（中）生徒質問紙調査 0.2未満：18.8% 0.2以上：81.2%（うち0.3以上：25.0%）

児童の「主・対・深」「総合・学活・道徳」の取組状況と「自己有用感等」との相関（R5小学校）

- 児童の取組状況と自己有用感等との相関を確認すると、カテゴリ2「自己有用感等」の質問項目ごとに傾向の違いが確認される
 - カテゴリ7「主・対・深」やカテゴリ8「総合・学活・道徳」は、質問項目全般において、質問8「人が困っているとき進んで助けている」や質問13「自分と違う意見について考えるのは楽しい」の間の正の相関が相対的に高い傾向がある
 - 質問7「将来の夢や目標を持っている」や質問9「いじめはいけなことだと思う」などの相関は低い傾向がある（ただし、例えば質問9は小中とも80%以上が「当てはまる」と回答しているなど回答の分散が小さい（回答のばらつきが少ない）点に留意が必要）
 - 質問12「学校に行くのが楽しい」についても、一定の相関が確認される
- 一方で、カテゴリ7・8の質問項目のなかで、特定の質問項目が児童の自己有用感等と強い相関があるような関係は見られない
 - 質問32「授業で工夫して発表していた」は相対的にカテゴリ2の質問項目との相関がやや低い傾向がある

		カテゴリ2（挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等）													
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	回答の平均	回答の分散
カテゴリ7	32	0.277	0.217	0.149	0.161	0.269	0.080	0.199	0.217	0.204	0.339	0.098	0.174	2.81	0.87
	33	0.319	0.284	0.238	0.184	0.345	0.169	0.255	0.312	0.294	0.429	0.156	0.229	3.06	0.62
	34	0.294	0.274	0.231	0.180	0.326	0.160	0.248	0.294	0.275	0.414	0.147	0.221	2.98	0.68
	35	0.268	0.332	0.337	0.148	0.262	0.213	0.282	0.291	0.353	0.358	0.223	0.272	3.16	0.63
	36	0.320	0.291	0.241	0.179	0.334	0.159	0.282	0.299	0.327	0.402	0.268	0.293	3.18	0.63
	37	0.293	0.283	0.273	0.174	0.322	0.186	0.276	0.304	0.299	0.413	0.173	0.239	3.04	0.66
	38	0.287	0.269	0.242	0.171	0.311	0.170	0.245	0.304	0.284	0.391	0.161	0.224	3.17	0.66
カテゴリ8	39	0.280	0.259	0.203	0.177	0.292	0.142	0.226	0.264	0.252	0.360	0.132	0.203	3.02	0.72
	40	0.230	0.287	0.266	0.140	0.269	0.163	0.229	0.249	0.258	0.315	0.172	0.216	3.04	0.70
	41	0.282	0.285	0.255	0.210	0.361	0.193	0.263	0.318	0.290	0.378	0.177	0.236	3.01	0.70
	42	0.270	0.285	0.254	0.178	0.323	0.191	0.241	0.297	0.283	0.347	0.177	0.239	3.24	0.66
回答の平均		3.21	3.37	3.52	3.34	3.36	3.79	2.92	3.70	3.31	3.04	3.51	3.40		
回答の分散		0.70	0.53	0.45	0.92	0.45	0.26	0.95	0.34	0.69	0.71	0.54	0.46		

※相関係数が0.2以上の場合に色を付け、0.1ごとに色を濃く描いている（以降も同様）

児童の「自己有用感等」(質問カテゴリ2)の相関(R5小学校)

- カテゴリ2「自己有用感等」の質問項目のうち、以下の質問については、比較的高い正の相関が確認される
 - 質問4「自分にはよいところがあると思う」と質問5「先生がよいところを認めてくれる」(0.431)
 - 質問5「先生がよいところを認めてくれる」と質問6「先生が分かるまで教えてくれている」(0.435)
- 一方で、全体として相関が非常に高いわけではないため、質問項目ごとの類似性は高くない
 - 前頁でカテゴリ2の質問項目ごとに傾向の違いが確認された要因のひとつと考えられる
(例えば質問8は相関係数が0.172~0.378、質問13は0.176~0.369)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
4		0.431	0.189	0.251	0.281	0.147	0.331	0.269	0.314	0.274	0.253	0.362
5	0.431		0.435	0.156	0.241	0.194	0.312	0.264	0.337	0.281	0.232	0.300
6	0.189	0.435		0.102	0.210	0.204	0.251	0.235	0.295	0.260	0.208	0.226
7	0.251	0.156	0.102		0.221	0.121	0.172	0.228	0.169	0.178	0.112	0.189
8	0.281	0.241	0.210	0.221		0.240	0.237	0.378	0.262	0.303	0.172	0.221
9	0.147	0.194	0.204	0.121	0.240		0.172	0.300	0.203	0.176	0.144	0.168
10	0.331	0.312	0.251	0.172	0.237	0.172		0.237	0.299	0.276	0.279	0.333
11	0.269	0.264	0.235	0.228	0.378	0.300	0.237		0.297	0.313	0.173	0.258
12	0.314	0.337	0.295	0.169	0.262	0.203	0.299	0.297		0.369	0.359	0.377
13	0.274	0.281	0.260	0.178	0.303	0.176	0.276	0.313	0.369		0.215	0.262
14	0.253	0.232	0.208	0.112	0.172	0.144	0.279	0.173	0.359	0.215		0.343
15	0.362	0.300	0.226	0.189	0.221	0.168	0.333	0.258	0.377	0.262	0.343	

α 係数 : 0.795

児童の「主・対・深」「総合・学活・道徳」の取組状況（質問カテゴリ7・8）の相関（R5小学校）

- 前頁と比較して、カテゴリ7・8の質問項目の相関について、全体的に各質問項目間の相関が高い傾向が確認される（例えば質問33、34、37、38）
 - 質問項目ごとの類似性が高く、前々頁で質問項目ごとの傾向の違いが見られなかった要因と考えられる
 - カテゴリ7の中での相関（左上ブロック）やカテゴリ8の中での相関（右下ブロック）が高いだけでなく、カテゴリ7の質問項目とカテゴリ8の質問項目との間での相関（左下ブロック）も高くなっている
 - カテゴリ7「主・対・深」の水準が高い学校は、カテゴリ8「総合・学活・道徳」の水準も高い傾向にあり、この2つの取り組みを分けて分析することが難しいことを示唆している

		カテゴリ7						カテゴリ8				
		32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42
カテゴリ7	32		0.477	0.432	0.281	0.400	0.364	0.354	0.445	0.282	0.339	0.339
	33	0.477		0.583	0.429	0.449	0.529	0.485	0.494	0.370	0.471	0.407
	34	0.432	0.583		0.428	0.440	0.514	0.517	0.496	0.387	0.476	0.407
	35	0.281	0.429	0.428		0.386	0.431	0.409	0.360	0.354	0.389	0.359
	36	0.400	0.449	0.440	0.386		0.426	0.405	0.412	0.366	0.422	0.421
	37	0.364	0.529	0.514	0.431	0.426		0.543	0.443	0.371	0.476	0.387
	38	0.354	0.485	0.517	0.409	0.405	0.543		0.439	0.357	0.454	0.383
カテゴリ8	39	0.445	0.494	0.496	0.360	0.412	0.443	0.439		0.410	0.447	0.408
	40	0.282	0.370	0.387	0.354	0.366	0.371	0.357	0.410		0.492	0.401
	41	0.339	0.471	0.476	0.389	0.422	0.476	0.454	0.447	0.492		0.447
	42	0.339	0.407	0.407	0.359	0.421	0.387	0.383	0.408	0.401	0.447	

α係数 : 0.887

質問5「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に肯定的に回答した児童（N = 890,716）

- カテゴリ7・8の中で正の相関がやや低い傾向が見られた質問32「授業で工夫して発表していた」について、教師からの評価が関係している可能性も考えられる
- そこで、教師からの良いフィードバックがあるとの自己認識の有無によって、児童の取組状況（カテゴリ7・8）と自己有用感等（カテゴリ2）との相関に違いが見られるかを確認する（ただし、回答の分散が小さい（回答のばらつきが少ない）質問9・11は分析対象から除外）
- 質問5「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対して、「当てはまる」または「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童（N = 890,716）について、質問項目間の相関係数を算出した
- 全体の傾向は9頁目と同様
 - 児童の取組状況と自己有用感等との相関を確認すると、カテゴリ2の質問項目ごとに傾向の違いが確認される
 - 一方で、カテゴリ7、カテゴリ8の質問項目のなかで、特定の取組内容が児童の自己有用感等と強い相関があるというような関係は見られない

		カテゴリ2（挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等）								
		4	6	7	8	10	12	13	14	15
カテゴリ7	32	0.258	0.127	0.149	0.255	0.181	0.186	0.325	0.082	0.157
	33	0.285	0.198	0.165	0.323	0.227	0.263	0.408	0.132	0.200
	34	0.257	0.192	0.162	0.303	0.220	0.243	0.393	0.124	0.192
	35	0.219	0.283	0.127	0.234	0.244	0.311	0.328	0.192	0.235
	36	0.284	0.203	0.161	0.315	0.254	0.296	0.381	0.242	0.265
	37	0.254	0.233	0.155	0.300	0.246	0.266	0.389	0.147	0.209
	38	0.250	0.200	0.152	0.288	0.215	0.250	0.366	0.137	0.194
カテゴリ8	39	0.245	0.164	0.159	0.269	0.198	0.220	0.337	0.107	0.174
	40	0.186	0.219	0.122	0.245	0.196	0.219	0.287	0.144	0.183
	41	0.242	0.212	0.193	0.340	0.233	0.255	0.354	0.151	0.204
	42	0.226	0.207	0.158	0.298	0.207	0.244	0.319	0.147	0.204

※質問回答の平均値が高く分散が小さい質問9と質問11については、分析から除いている（9頁を参照）

児童の「主・対・深」「総合・学活・道徳」の取組状況と「自己有用感等」との相関（R5小学校）

質問5「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に否定的に回答した児童（N = 100,978）

- （前項から継続）次に、質問5「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対して、「当てはまらない」または「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した児童（N = 100,978）について、質問項目間の相関係数を算出した
- 前項と比較して、全体的に相関が弱まることが分かる
- ただし、質問8「人が困っているとき進んで助けている」や質問13「自分と違う意見について考えるのは楽しい」については、カテゴリ7・8の質問との間で依然として比較的高い相関が見られる

		カテゴリ2（挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等）								
		4	6	7	8	10	12	13	14	15
カテゴリ7	32	0.197	0.031	0.150	0.246	0.115	0.127	0.298	0.039	0.102
	33	0.217	0.132	0.170	0.318	0.156	0.220	0.391	0.085	0.159
	34	0.201	0.125	0.162	0.306	0.154	0.202	0.375	0.078	0.147
	35	0.131	0.271	0.111	0.213	0.202	0.300	0.300	0.165	0.204
	36	0.223	0.124	0.163	0.295	0.204	0.259	0.347	0.239	0.232
	37	0.192	0.172	0.151	0.288	0.186	0.224	0.373	0.112	0.169
	38	0.192	0.160	0.156	0.288	0.166	0.226	0.362	0.102	0.166
カテゴリ8	39	0.196	0.102	0.163	0.275	0.147	0.185	0.330	0.078	0.140
	40	0.112	0.191	0.108	0.225	0.144	0.196	0.264	0.121	0.144
	41	0.185	0.165	0.188	0.330	0.180	0.232	0.328	0.121	0.172
	42	0.180	0.174	0.160	0.307	0.172	0.229	0.312	0.136	0.189

※質問回答の平均値が高く分散が小さい質問9と質問11については、分析から除いている（9頁を参照）

児童の「主・対・深」「総合・学活・道徳」の取組状況と「自己有用感等」との相関（R5小学校）

質問5「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」への回答による差（前々頁と前頁の比較）

- 前々頁と前頁の相関係数の差を確認すると、全体的にはそこまで大きな差は見られない
- ただし、以下の質問項目については、教師から良いフィードバックを得られているという認識がある場合のほうが、相関が若干高い傾向が見られる
 - 質問4「自分にはよいところがあると思う」
 - 質問6「先生が分かるまで教えてくれている」
 - 質問10「先生や学校にいる大人に困りごとなどを相談できる」
- 「主・対・深」や「総合・学活・道徳」の有効性には、教師からのフィードバックも関係している可能性があることを示唆している

		カテゴリ2（挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等）								
		4	6	7	8	10	12	13	14	15
カテゴリ7	32	0.061	0.096	-0.001	0.008	0.067	0.059	0.027	0.043	0.055
	33	0.068	0.066	-0.005	0.005	0.071	0.043	0.017	0.047	0.041
	34	0.057	0.067	0.000	-0.003	0.066	0.041	0.017	0.046	0.045
	35	0.088	0.012	0.016	0.021	0.042	0.011	0.028	0.027	0.031
	36	0.060	0.080	-0.002	0.020	0.050	0.038	0.034	0.003	0.033
	37	0.062	0.061	0.005	0.012	0.060	0.042	0.016	0.036	0.040
	38	0.058	0.039	-0.003	0.000	0.050	0.024	0.004	0.035	0.028
カテゴリ8	39	0.048	0.062	-0.003	-0.005	0.052	0.035	0.006	0.029	0.034
	40	0.074	0.028	0.014	0.021	0.053	0.024	0.023	0.023	0.039
	41	0.056	0.047	0.005	0.011	0.054	0.023	0.026	0.030	0.032
	42	0.046	0.033	-0.002	-0.009	0.035	0.016	0.007	0.011	0.015

※値が0.05以上の場合に黒字、0.075以上の場合に赤字で表示している

※質問回答の平均値が高く分散が小さい質問9と質問11については、分析から除いている（9頁を参照）

1－2. 生徒の「主・対・深」「総合・学活・道徳」の取組状況と「自己有用感等」との関係性の分析（R5中学校）

生徒の「主・対・深」「総合・学活・道徳」の取組状況と「自己有用感等」との相関（R5中学校）

- 生徒の取組状況と自己有用感等との相関を確認すると、カテゴリ2「自己有用感等」の質問項目ごとに傾向の違いが確認される
 - カテゴリ7「主・対・深」やカテゴリ8「総合・学活・道徳」は、質問項目全般において、質問8「人が困っているとき進んで助けている」や質問13「自分と違う意見について考えるのは楽しい」の間の正の相関が相対的に高い傾向がある
 - 質問7「将来の夢や目標を持っている」や質問9「いじめはいけなことだと思う」などの相関は低い傾向がある（ただし、例えば質問9は小中とも80%以上が「当てはまる」と回答しているなど回答の分散が小さい（回答のばらつきが少ない）点に留意が必要）
 - 質問12「学校に行くのが楽しい」についても、一定の相関が確認される
- 一方で、カテゴリ7・8の質問項目のなかで、特定の質問項目が生徒の自己有用感等と強い相関があるような関係は見られない
 - 質問36「授業で工夫して発表していた」は相対的にカテゴリ2の質問項目との相関がやや低い傾向がある

		カテゴリ2（挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等）												回答の平均	回答の分散
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
カテゴリ7	36	0.255	0.215	0.155	0.154	0.260	0.044	0.162	0.180	0.203	0.287	0.108	0.168	2.75	0.87
	37	0.290	0.281	0.259	0.182	0.328	0.135	0.224	0.275	0.281	0.366	0.169	0.217	3.06	0.62
	38	0.263	0.276	0.257	0.178	0.302	0.125	0.236	0.250	0.261	0.361	0.160	0.213	2.86	0.69
	39	0.239	0.334	0.393	0.139	0.232	0.184	0.312	0.253	0.342	0.304	0.245	0.259	2.93	0.62
	40	0.308	0.316	0.263	0.165	0.324	0.135	0.268	0.290	0.355	0.377	0.252	0.291	3.12	0.65
	41	0.265	0.274	0.295	0.183	0.284	0.140	0.252	0.247	0.275	0.343	0.182	0.225	2.87	0.69
	42	0.270	0.277	0.271	0.186	0.295	0.129	0.247	0.258	0.279	0.367	0.172	0.223	2.89	0.70
カテゴリ8	43	0.253	0.268	0.227	0.176	0.289	0.131	0.216	0.245	0.254	0.312	0.152	0.204	2.95	0.75
	44	0.226	0.313	0.300	0.140	0.284	0.169	0.258	0.253	0.295	0.296	0.221	0.232	3.02	0.66
	45	0.272	0.312	0.278	0.219	0.376	0.184	0.283	0.307	0.316	0.335	0.210	0.244	2.90	0.71
	46	0.262	0.304	0.265	0.165	0.326	0.189	0.234	0.302	0.301	0.308	0.199	0.246	3.27	0.61
回答の平均		3.12	3.24	3.31	2.93	3.26	3.75	2.87	3.66	3.21	3.07	3.43	3.28		
回答の分散		0.73	0.55	0.51	1.12	0.48	0.31	0.96	0.37	0.73	0.66	0.55	0.50		

※相関係数が0.2以上の場合に色を付け、0.1ごとに色を濃く描いている（以降も同様）

生徒の「自己有用感等」（質問カテゴリ2）の相関（R5中学校）

- カテゴリ2の質問項目のうち、以下の質問については、比較的高い正の相関が確認される
 - 質問4「自分にはよいところがあると思う」と質問5「先生がよいところを認めてくれる」（0.492）
 - 質問5「先生がよいところを認めてくれる」と質問6「先生が分かるまで教えてくれている」（0.431）
 - 質問12「学校に行くのが楽しい」と質問14「友達関係に満足している」（0.441）
 - 質問12「学校に行くのが楽しい」と質問15「普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある」（0.429）
- 一方で、全体として相関が非常に高いわけではないため、質問項目ごとの類似性は高くない
 - 前頁でカテゴリ2の質問項目ごとに傾向の違いが確認された要因のひとつと考えられる

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
4		0.492	0.205	0.257	0.284	0.099	0.338	0.220	0.364	0.255	0.280	0.378
5	0.492		0.431	0.187	0.271	0.181	0.394	0.266	0.373	0.273	0.281	0.330
6	0.205	0.431		0.117	0.216	0.184	0.318	0.225	0.298	0.259	0.246	0.234
7	0.257	0.187	0.117		0.255	0.105	0.181	0.204	0.179	0.181	0.109	0.186
8	0.284	0.271	0.216	0.255		0.223	0.231	0.392	0.277	0.283	0.182	0.223
9	0.099	0.181	0.184	0.105	0.223		0.167	0.295	0.167	0.118	0.128	0.145
10	0.338	0.394	0.318	0.181	0.231	0.167		0.235	0.363	0.261	0.310	0.331
11	0.220	0.266	0.225	0.204	0.392	0.295	0.235		0.304	0.273	0.169	0.247
12	0.364	0.373	0.298	0.179	0.277	0.167	0.363	0.304		0.349	0.441	0.429
13	0.255	0.273	0.259	0.181	0.283	0.118	0.261	0.273	0.349		0.236	0.257
14	0.280	0.281	0.246	0.109	0.182	0.128	0.310	0.169	0.441	0.236		0.364
15	0.378	0.330	0.234	0.186	0.223	0.145	0.331	0.247	0.429	0.257	0.364	

α係数 : 0.801

生徒の「主・対・深」「総合・学活・道徳」の取組状況（質問カテゴリ7・8）の相関（R5中学校）

- 前頁と比較して、カテゴリ7・8の質問項目の相関について、全体的に各質問項目間の相関が高い傾向が確認される（例えば質問37、38、41、42（小学校と同様））
 - 質問項目ごとの類似性が高く、前々頁で質問項目ごとの傾向の違いが見られなかった要因と考えられる
 - カテゴリ7の中での相関（左上ブロック）やカテゴリ8の中での相関（右下ブロック）が高いだけでなく、カテゴリ7の質問項目とカテゴリ8の質問項目との間での相関（左下ブロック）も高くなっている
 - カテゴリ7「主・対・深」の水準が高い学校は、カテゴリ8「総合・学活・道徳」の水準も高い傾向にあり、この2つの取組を分けて分析することが難しいことを示唆している

		カテゴリ7						カテゴリ8				
		36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46
カテゴリ7	36		0.463	0.428	0.268	0.399	0.356	0.356	0.421	0.277	0.324	0.318
	37	0.463		0.614	0.449	0.440	0.546	0.505	0.467	0.365	0.449	0.403
	38	0.428	0.614		0.466	0.426	0.512	0.534	0.487	0.402	0.473	0.400
	39	0.268	0.449	0.466		0.374	0.447	0.430	0.359	0.379	0.397	0.353
	40	0.399	0.440	0.426	0.374		0.406	0.405	0.425	0.412	0.436	0.466
	41	0.356	0.546	0.512	0.447	0.406		0.603	0.418	0.359	0.447	0.358
	42	0.356	0.505	0.534	0.430	0.405	0.603		0.429	0.376	0.463	0.372
カテゴリ8	43	0.421	0.467	0.487	0.359	0.425	0.418	0.429		0.477	0.485	0.464
	44	0.277	0.365	0.402	0.379	0.412	0.359	0.376	0.477		0.564	0.472
	45	0.324	0.449	0.473	0.397	0.436	0.447	0.463	0.485	0.564		0.494
	46	0.318	0.403	0.400	0.353	0.466	0.358	0.372	0.464	0.472	0.494	

α係数 : 0.890

生徒の「主・対・深」「総合・学活・道徳」の取組状況と「自己有用感等」との相関（R5中学校）

質問5「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に肯定的に回答した生徒（N = 807,424）

- カテゴリ7・8の中で正の相関がやや低い傾向が見られた質問36「授業で工夫して発表していた」について、教師からの評価が関係している可能性も考えられる
- そこで、教師からの良いフィードバックがあるとの自己認識の有無によって、生徒の取組状況と自己有用感等との相関に違いが見られるかを確認する（ただし、回答の分散が小さい（回答のばらつきが少ない）質問9・11は分析対象から除外）
- 質問5「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対して、「当てはまる」または「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒（N = 807,424）について、質問項目間の相関係数を算出した
- 全体の傾向は16頁目と同様
 - 生徒の取組状況と自己有用感等との相関を確認すると、カテゴリ2の質問項目ごとに傾向の違いが確認される
 - 一方で、カテゴリ7、カテゴリ8の質問項目のなかで、特定の取組内容が生徒の自己有用感等と強い相関があるような関係は見られない

		カテゴリ2（挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等）								
		4	6	7	8	10	12	13	14	15
カテゴリ7	36	0.232	0.134	0.140	0.243	0.139	0.181	0.273	0.090	0.149
	37	0.249	0.223	0.160	0.302	0.188	0.245	0.344	0.143	0.185
	38	0.220	0.221	0.158	0.278	0.201	0.225	0.341	0.134	0.182
	39	0.180	0.347	0.117	0.202	0.266	0.297	0.277	0.213	0.218
	40	0.261	0.222	0.143	0.298	0.227	0.315	0.355	0.222	0.257
	41	0.220	0.260	0.163	0.259	0.217	0.239	0.321	0.156	0.193
	42	0.226	0.233	0.167	0.271	0.213	0.243	0.345	0.146	0.191
カテゴリ8	43	0.209	0.188	0.156	0.263	0.179	0.216	0.287	0.123	0.171
	44	0.171	0.252	0.119	0.258	0.215	0.250	0.269	0.189	0.194
	45	0.222	0.236	0.199	0.353	0.243	0.274	0.313	0.180	0.207
	46	0.209	0.217	0.140	0.297	0.189	0.256	0.278	0.166	0.206

※質問回答の平均値が高く分散が小さい質問9と質問11については、分析から除いている（16頁を参照）

質問5「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に否定的に回答した生徒（N = 116,923）

- （前項から継続）次に、質問5「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対して、「当てはまらない」または「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した生徒（N = 116,923）について、質問項目間の相関係数を算出した
- 前項と比較して、全体的に相関が弱まることが分かる
- ただし、質問8「人が困っているとき進んで助けている」や質問13「自分と違う意見について考えるのは楽しい」については、カテゴリ7・8の質問との間で依然として比較的高い相関が見られる

		カテゴリ2（挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等）								
		4	6	7	8	10	12	13	14	15
カテゴリ7	36	0.174	0.049	0.135	0.236	0.061	0.132	0.248	0.040	0.091
	37	0.185	0.158	0.165	0.305	0.110	0.204	0.324	0.086	0.137
	38	0.153	0.155	0.150	0.270	0.116	0.182	0.312	0.075	0.126
	39	0.080	0.323	0.083	0.165	0.199	0.262	0.231	0.154	0.169
	40	0.195	0.151	0.134	0.286	0.156	0.291	0.330	0.182	0.216
	41	0.166	0.200	0.153	0.245	0.140	0.196	0.294	0.100	0.145
	42	0.165	0.186	0.154	0.257	0.131	0.207	0.322	0.088	0.143
カテゴリ8	43	0.154	0.140	0.153	0.263	0.108	0.185	0.276	0.080	0.133
	44	0.088	0.221	0.093	0.231	0.144	0.225	0.237	0.144	0.150
	45	0.147	0.177	0.185	0.333	0.168	0.243	0.269	0.125	0.164
	46	0.150	0.184	0.142	0.302	0.133	0.241	0.268	0.128	0.182

※質問回答の平均値が高く分散が小さい質問9と質問11については、分析から除いている（16頁を参照）

生徒の「主・対・深」「総合・学活・道徳」の取組状況と「自己有用感等」との相関（R5中学校）

質問5「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」への回答による差（前々頁と前頁の比較）

- 前々頁と前頁の相関係数の差を確認すると、全体的にはそこまで大きな差は見られない
- ただし、以下の質問項目については、教師から良いフィードバックを得られているという認識がある場合のほうが、相関が若干高い傾向が見られる
 - 質問4「自分にはよいところがあると思う」
 - 質問6「先生が分かるまで教えてくれている」
 - 質問10「先生や学校にいる大人に困りごとなどを相談できる」
- 「主・対・深」や「総合・学活・道徳」の有効性には、教師からのフィードバックも関係している可能性があることを示唆している

		カテゴリ2（挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等）								
		4	6	7	8	10	12	13	14	15
カテゴリ7	36	0.058	0.085	0.005	0.006	0.078	0.049	0.025	0.050	0.058
	37	0.064	0.065	-0.005	-0.002	0.078	0.042	0.019	0.057	0.048
	38	0.067	0.066	0.008	0.008	0.085	0.043	0.029	0.059	0.055
	39	0.100	0.024	0.035	0.038	0.067	0.034	0.046	0.059	0.049
	40	0.066	0.072	0.009	0.012	0.071	0.025	0.025	0.041	0.042
	41	0.054	0.060	0.009	0.014	0.077	0.043	0.026	0.056	0.048
	42	0.061	0.047	0.013	0.014	0.081	0.036	0.023	0.057	0.048
カテゴリ8	43	0.055	0.048	0.003	-0.001	0.071	0.031	0.012	0.044	0.038
	44	0.082	0.032	0.026	0.026	0.070	0.024	0.032	0.044	0.044
	45	0.075	0.058	0.014	0.019	0.075	0.031	0.043	0.055	0.043
	46	0.059	0.033	-0.001	-0.005	0.055	0.015	0.010	0.038	0.024

※値が0.05以上の場合に黒字、0.075以上の場合に赤字で表示している

※質問回答の平均値が高く分散が小さい質問9と質問11については、分析から除いている（16頁を参照）

2. 質問回答の因子分析

児童の「自己有用感等」に関する質問項目の分類（R5小学校）

- カテゴリ2の質問への回答結果に対して因子分析を用いて、質問項目を分類した（プロマックス回転・最尤法）
 - 因子数を3以上とすると適切に計算できない不適解が生じるため、因子数は2と設定した
 - 本来の因子数（観測不可能）に比べて、3因子以上だと因子数が多すぎる可能性がある
- 左表は因子負荷量を表している
 - 因子1は、質問5「先生がよいところを認めてくれる」、質問10「先生や学校にいる大人に困りごとなどを相談できる」、質問15「普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある」等の質問項目に関係する因子である
 - 因子2は、質問8「人が困っているとき進んで助けている」や質問11「人の役に立つ人間になりたい」等の質問項目に関係する因子である
- 右表は因子得点とカテゴリ7・8の各質問項目との相関係数を表している（色付けでは違いが分かりづらいため棒グラフで表している）
 - 因子得点1と因子得点2で、カテゴリ7「主・対・深」やカテゴリ8「総合・学活・道徳」との相関の傾向に大きな違いは見られない

因子負荷量行列

質問番号	因子1	因子2
4	0.539	0.056
5	0.578	0.028
6	0.407	0.092
7	0.100	0.275
8	0.003	0.579
9	0.007	0.415
10	0.530	0.014
11	-0.065	0.709
12	0.570	0.059
13	0.292	0.284
14	0.602	-0.143
15	0.630	-0.056
寄与率	0.188	0.101

※値が0.3以上の場合に
黒字で表示している

※因子間相関：0.714

因子得点とカテゴリ7・8との相関係数

		因子得点1	因子得点2
カテゴリ7	32	0.345	0.365
	33	0.455	0.488
	34	0.433	0.464
	35	0.490	0.466
	36	0.499	0.487
	37	0.460	0.480
	38	0.433	0.461
カテゴリ8	39	0.396	0.419
	40	0.403	0.403
	41	0.454	0.492
	42	0.436	0.460

児童の「主・対・深」「総合・学活・道徳」の取組状況に関する質問項目の分類（R5小学校）

- カテゴリ7「主・対・深」、カテゴリ8「総合・学活・道徳」の回答結果に対して、因子分析を用いて、質問項目を分類した（プロマックス回転・最尤法）
 - 2つのカテゴリに分かれている質問であるため、因子数は2と設定した
- 左表は因子負荷量を表している
 - 基本的にはカテゴリ7とカテゴリ8で分かれているが、質問39「総合的な学習の時間」のみ、カテゴリ7の質問群に含まれている
 - 質問39の質問文にある「課題」という言葉は質問33と、「発表」という言葉は質問32とそれぞれ共通しているため、質問39への回答の傾向がそれらの質問と近くなった可能性が考えられる
- 右表は因子得点とカテゴリ2の各質問項目との相関係数を表している
 - 因子得点Aと因子得点Bで、カテゴリ2の各質問との相関係数はほぼ同じ値となっている
 - 11頁で確認したようにカテゴリ7と8の質問項目間では相関が全体的に高いため、2つのカテゴリを分けて分析するのは難しいことがわかる

因子負荷量行列

	因子A	因子B
32	0.630	-0.042
33	0.823	-0.081
34	0.733	0.009
カテゴリ7		
35	0.350	0.243
36	0.378	0.277
37	0.589	0.119
38	0.566	0.116
39	0.469	0.213
カテゴリ8		
40	-0.178	0.814
41	0.097	0.633
42	0.144	0.480
寄与率	0.257	0.137

因子得点とカテゴリ2との相関係数

	カテゴリ2（挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等）												
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
因子得点A	0.40	0.37	0.32	0.24	0.43	0.21	0.34	0.39	0.38	0.53	0.22	0.31	
因子得点B	0.38	0.39	0.35	0.24	0.44	0.23	0.35	0.39	0.39	0.51	0.24	0.32	

※値が0.3以上の場合に黒字で表示している

※因子間相関：0.714

生徒の「自己有用感等」に関する質問項目の分類（R5中学校）

- カテゴリ2の質問への回答結果に対して因子分析を用いて、質問項目を分類した（プロマックス回転・最尤法）
 - 因子数を3以上とすると適切に計算できない不適解が生じるため、因子数は2と設定した
 - 本来の因子数（観測不可能）に比べて、3因子以上だと因子数が多すぎる可能性がある
- 左表は因子負荷量を表している
 - 因子1は、質問5「先生がよいところを認めてくれる」、質問10「先生や学校にいる大人に困りごとなどを相談できる」、質問15「普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある」等の質問項目に関係する因子である
 - 因子2は、質問8「人が困っているとき進んで助けている」や質問11「人の役に立つ人間になりたい」等の質問項目に関係する因子である
- 右表は因子得点とカテゴリ7・8の各質問項目との相関係数を表している（色付けでは違いが分かりづらいため棒グラフで表している）
 - 因子得点1と因子得点2で、カテゴリ7「主・対・深」やカテゴリ8「総合・学活・道徳」との相関の傾向に大きな違いは見られない

因子負荷量行列

質問番号	因子1	因子2
4	0.607	-0.007
5	0.617	0.040
6	0.414	0.101
7	0.123	0.265
8	0.016	0.592
9	-0.036	0.421
10	0.564	0.018
11	-0.075	0.713
12	0.643	0.031
13	0.307	0.226
14	0.637	-0.136
15	0.615	-0.033
寄与率	0.213	0.099

※値が0.3以上の場合に
黒字で表示している

※因子間相関：0.673

因子得点とカテゴリ7・8との相関係数

	因子得点1	因子得点2	
カテゴリ7	32	0.311	0.319
	33	0.414	0.441
	34	0.398	0.415
	35	0.468	0.423
	36	0.483	0.468
	37	0.412	0.414
	38	0.413	0.424
カテゴリ8	39	0.377	0.397
	40	0.422	0.416
	41	0.456	0.491
	42	0.428	0.456

生徒の「主・対・深」「総合・学活・道徳」の取組状況に関する質問項目の分類（R5中学校）

- カテゴリ7「主・対・深」、カテゴリ8「総合・学活・道徳」の回答結果に対して因子分析を用いて、質問項目を分類した（プロマックス回転・最尤法）
 - 2つのカテゴリに分かれている質問であるため、因子数は2と設定した
- 左表は因子負荷量を表している
 - 基本的にはカテゴリ7とカテゴリ8で分かれているが、質問40「話し合いにより考えを深め広げた」のみ、カテゴリ7の質問群に含まれている
 - 質問40の質問文には「学級の生徒との間で話し合う活動」という言葉があるが、質問44、45、46の質問文にも似たような言葉が含まれるため、質問40への回答の傾向がそれらの質問と近くなった可能性が考えられる
- 右表は因子得点とカテゴリ2の各質問項目との相関係数を表している
 - 因子得点Aと因子得点Bで、カテゴリ2の各質問との相関係数に大きな違いは見られない
 - 18頁で確認したようにカテゴリ7と8の質問項目間では相関が全体的に高いため、2つのカテゴリを分けて分析するのは難しいことがわかる

因子負荷量行列			因子得点とカテゴリ2との相関係数														
	因子A	因子B	カテゴリ2（挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等）														
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15			
カテゴリ7	36	0.495	0.078														
	37	0.813	-0.068														
	38	0.734	0.020														
	39	0.454	0.155														
	40	0.262	0.407														
	41	0.764	-0.059														
	42	0.698	0.010														
カテゴリ8	43	0.244	0.458														
	44	-0.178	0.865														
	45	0.075	0.674														
	46	0.008	0.648														
寄与率	0.263	0.185															

※値が0.3以上の場合に黒字で表示している
※因子間相関：0.780

3. SESや学力を統制した分析（R5小学校、R5中学校）

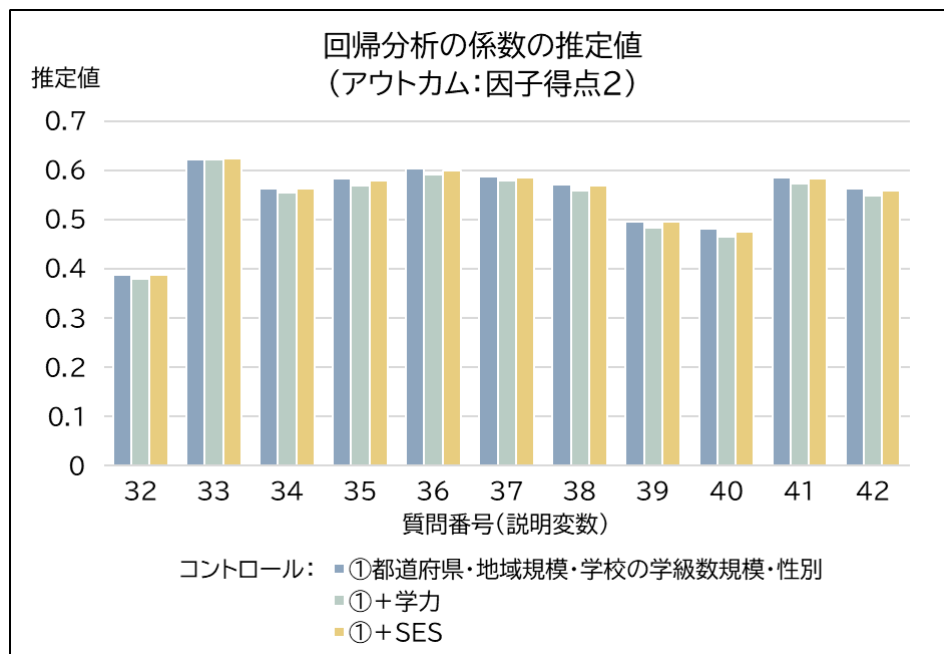
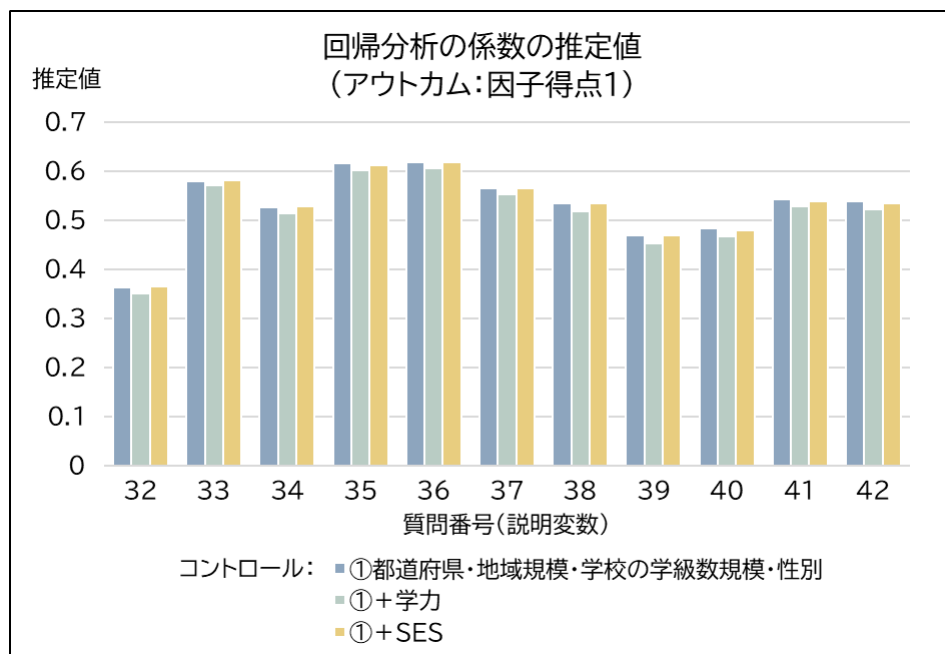
分析方針

- 前章までの分析では、カテゴリ2の質問項目とカテゴリ7・8の質問項目との単純な相関係数を確認したが、その間には交絡因子が存在している可能性がある
 - 例えば、学力やSES（社会経済的背景）の高い児童生徒は、カテゴリ2（自己有用感等）の質問項目でもカテゴリ7・8（取組状況）の質問項目でも回答のスコアが高い傾向があるかもしれない
- そこで、重回帰分析を用いて、学力やSESが同水準の児童生徒を比較する分析を行った
- 分析モデル：カテゴリ2の因子得点 $i = \beta_0 + \beta_1 \cdot \text{カテゴリ7・8の質問 } Q \text{ の回答}_i + X'_i \gamma + \varepsilon_i$
 - カテゴリ2の因子得点 i ：23頁・25頁の因子分析で算出した、児童生徒 i の因子得点1または因子得点2
 - － 因子得点はいずれも平均0、分散1となるように標準化している
 - カテゴリ7・8の質問 Q の回答 i ：児童生徒 i の、カテゴリ7・8の質問 Q に対する回答
 - － 小学校の場合は質問32～42のうちひとつを、中学校の場合は質問36～46のうちひとつを説明変数として用いた
 - X' ：コントロール変数
 - － 都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別を基本のコントロールとした
 - － 分析①では、コントロール変数に児童生徒のSESや学力の指標を加えた場合と加えない場合の結果を比較して、SESや学力が交絡因子になっているかどうかを確認した
 - － 分析②では、SESの層別に児童生徒のサンプルを3分割し、それぞれのサンプルに対して上記のモデルで重回帰分析を行い、結果を比較した
 - － 分析③では、学力の層別に児童生徒のサンプルを3分割し、それぞれのサンプルに対して上記のモデルで重回帰分析を行い、結果を比較した
 - SESの指標としては、自宅の蔵書数を利用した（※）
 - 学力の指標としては、国語・算数（中学生の場合は国語・数学・英語）の得点をそれぞれ平均0、分散1となるように標準化したうえで合計したスコアを使用した

※田端（2023）では、蔵書数とSESとの関係について多面的な検証を行い、「蔵書数の質問項目は、児童生徒のSESの代替指標として、信頼度の高い指標であることが判明した」と結論付けている（https://doi.org/10.11555/taikaip.82.0_165）

分析①：SESや学力を統制した回帰分析（R5小学校）

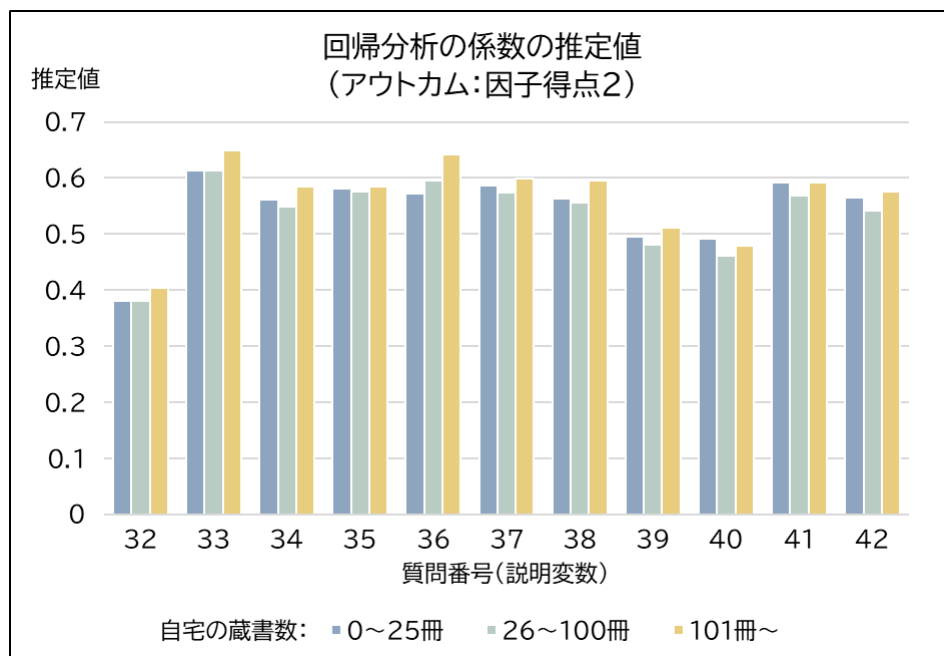
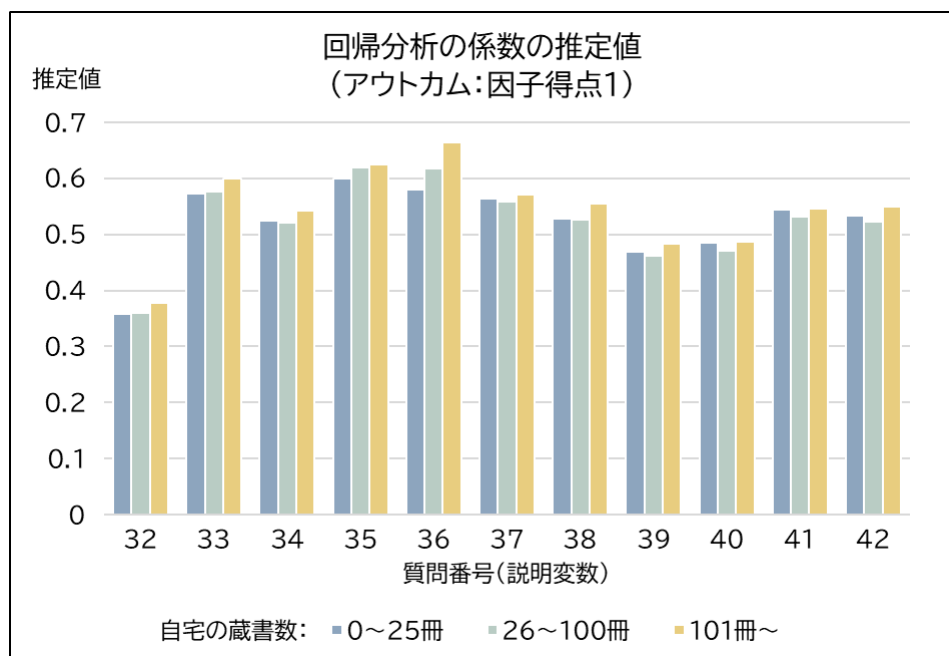
- 前述のモデルを用いて、学力やSESをコントロールした場合とコントロールしない場合の係数の推定値の違いを確認した
 - 棒グラフはカテゴリ7・8の質問回答の係数の推定値を表す
 - 例えば質問32への回答が4件法で1向上すると、因子得点1のスコアが0.3～0.4標準偏差程度上昇することがわかる
- 学力をコントロールした場合、わずかに係数の推定値が小さくなる傾向があるものの、学力やSESのコントロールによって推定値は大きく変わらない
 - 学力やSESの水準が同程度の児童を比較しても推定値が大きくは変わらないことから、学力やSESによる交絡が深刻なバイアスには繋がっていない可能性を示唆している
 - サンプルサイズが非常に大きいため推定結果はいずれも統計的に有意である（※）



※いずれもp値≒0となっている。推定値、N数、t値、p値については、Appendixにて表を掲載している

分析②：SESによる層別の回帰分析（R5小学校）

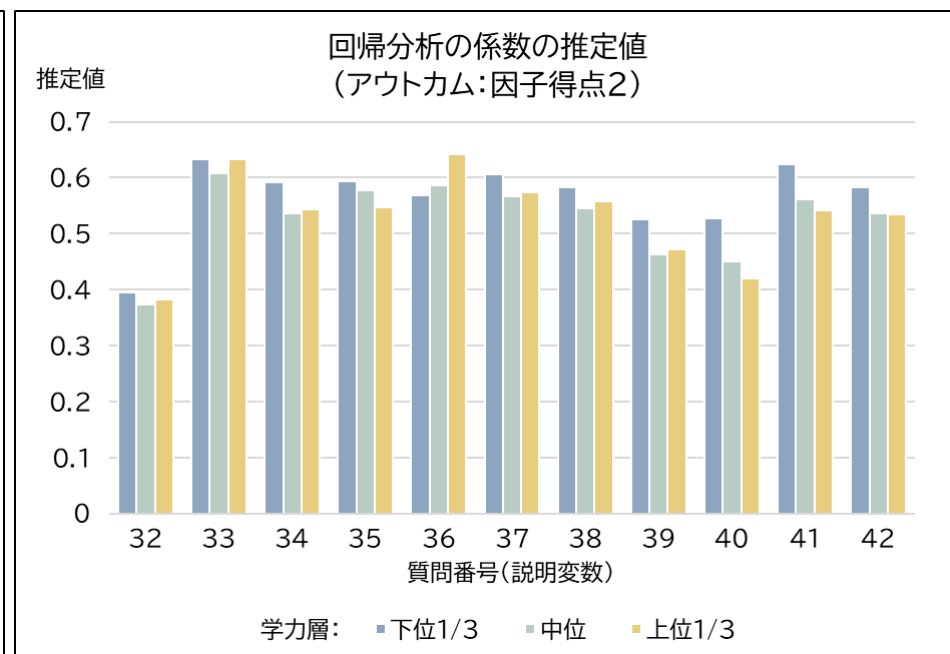
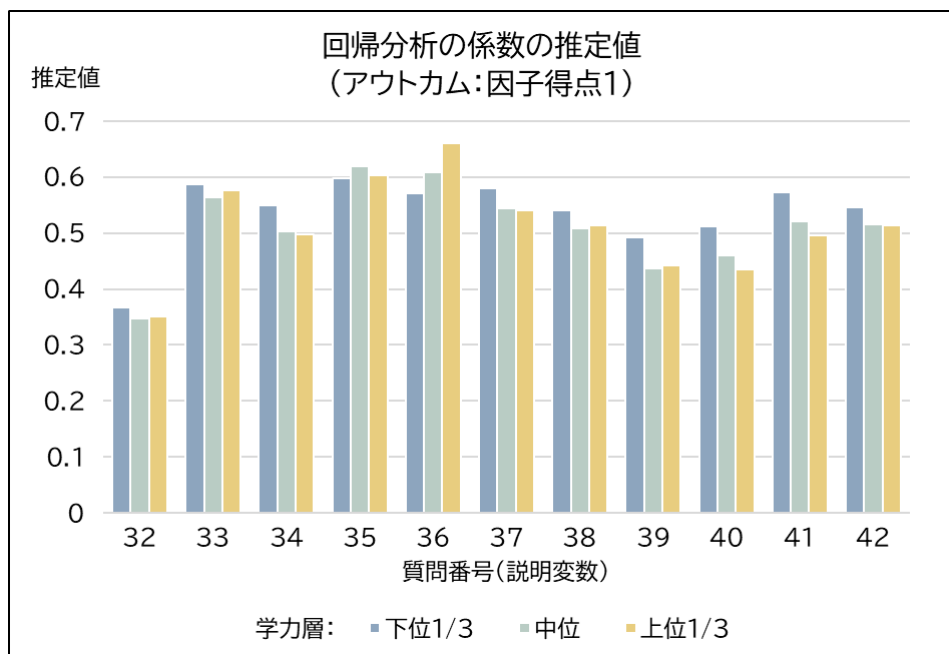
- SES（自宅の蔵書数）の水準でサンプルを分割したうえで、前述のモデルを用いた回帰分析を実施した
 - 都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別をコントロールしている
 - 棒グラフはカテゴリ7・8の質問回答の係数の推定値を表す
 - 例えば質問32への回答が4件法で1向上すると、因子得点1のスコアが0.3～0.4標準偏差程度上昇することがわかる
- 自宅の蔵書数による推定値の多少の変動はみられるものの、基本的にどの層に対しても推定値は比較的高い値を示している
 - 「主・対・深」や「総合・学活・道徳」は、児童のSESの水準に関わらず比較的有效である可能性が示唆される
 - サンプルサイズが非常に大きいため推定結果はいずれも統計的に有意である（※）



※いずれもp値=0となっている。推定値、N数、t値、p値については、Appendixにて表を掲載している

分析③：学力による層別の回帰分析（R5小学校）

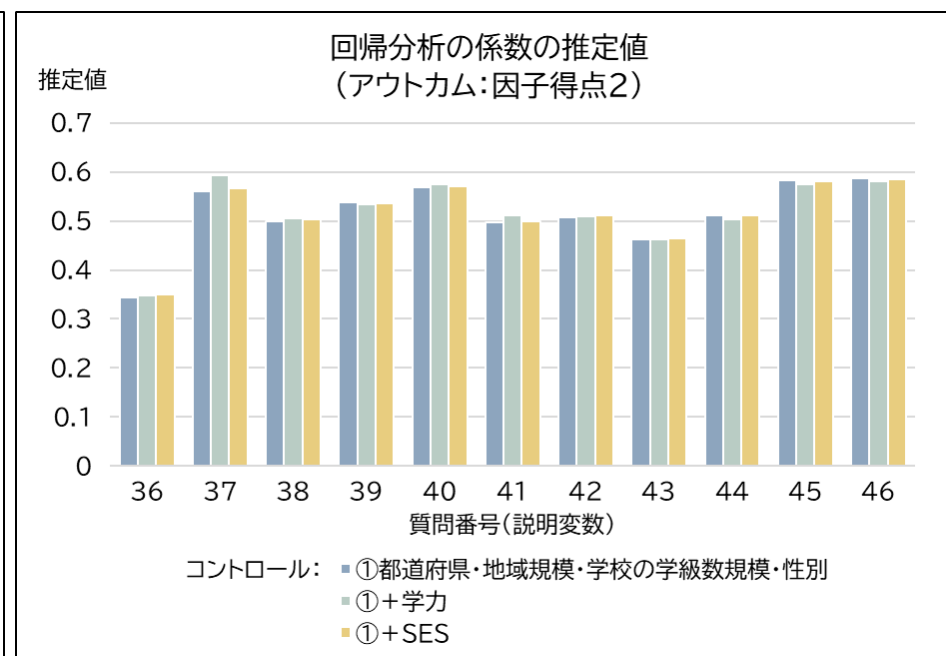
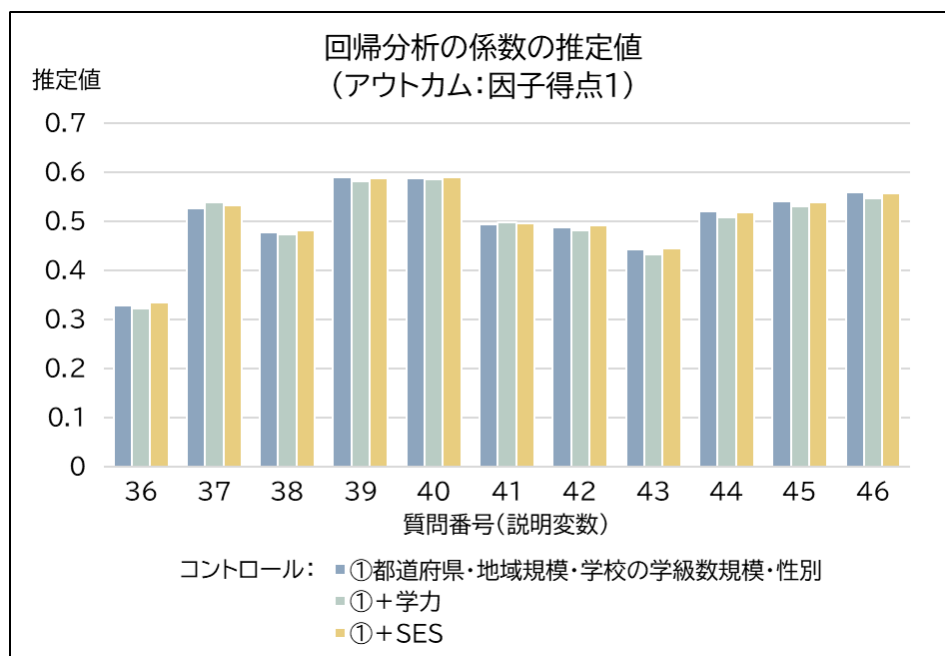
- 学力の水準でサンプルを分割したうえで、前述のモデルを用いた回帰分析を実施した
 - 都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別をコントロールしている
 - 棒グラフはカテゴリ7・8の質問回答の係数の推定値を表す
 - 例えば質問32への回答が4件法で1向上すると、因子得点1のスコアが0.3～0.4標準偏差程度上昇することがわかる
- 基本的には、どの層に対しても推定値は比較的高い値を示している
 - カテゴリ8の質問（質問39～質問42）については、低学力層の方が係数がわずかに大きい傾向にあり、「総合・学活・道徳」が低学力層に対して比較的有效である可能性が示唆される
 - 逆に、質問36「話し合いにより考えを深め広げた」については、高学力層の方が係数がわずかに大きい傾向にある
 - サンプルサイズが非常に大きいため推定結果はいずれも統計的に有意である（※）



※いずれもp値=0となっている。推定値、N数、t値、p値については、Appendixにて表を掲載している

分析①：SESや学力を統制した回帰分析（R5中学校）

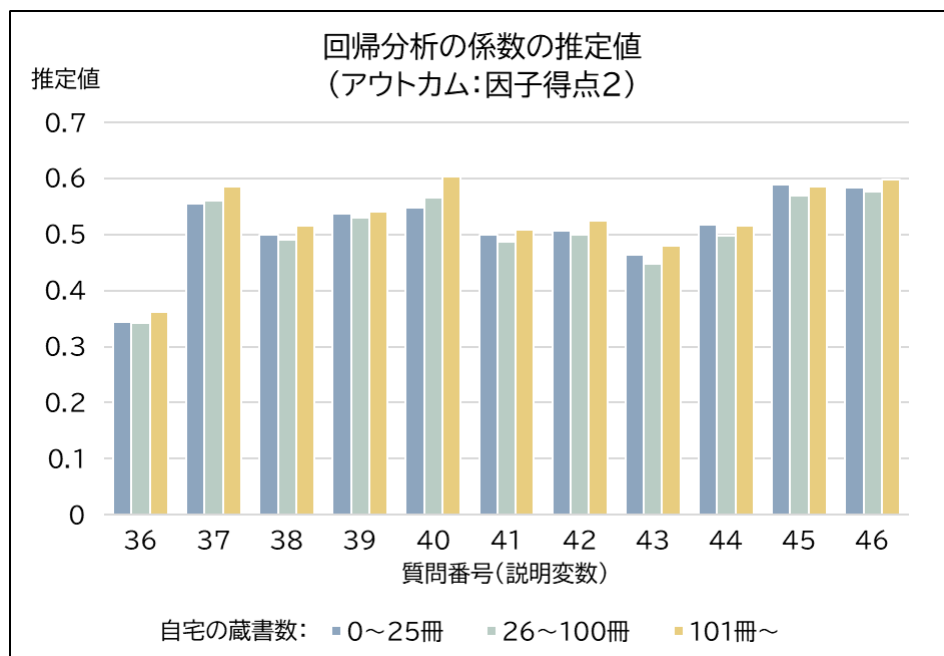
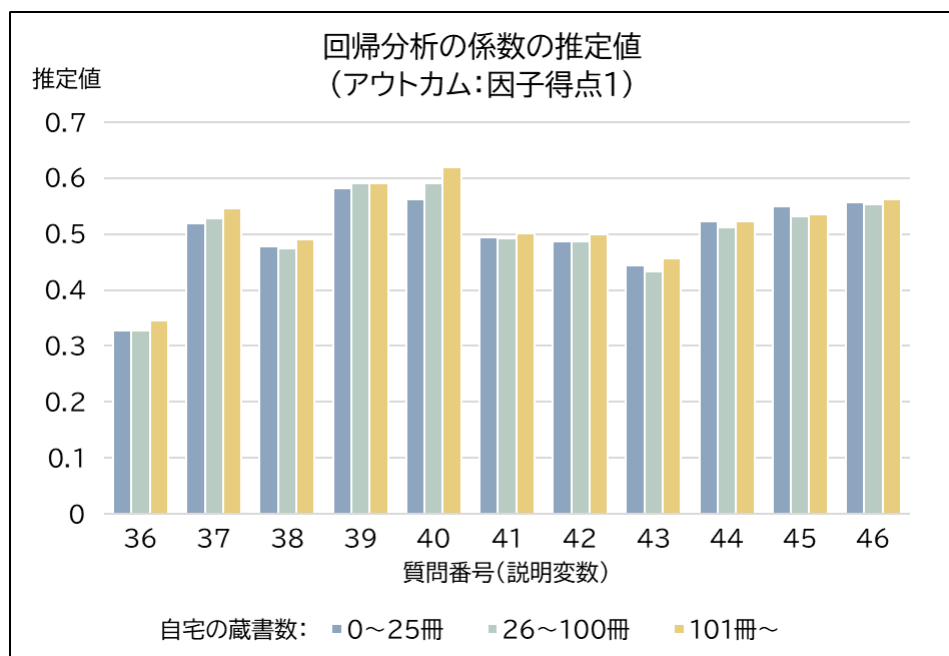
- 前述のモデルを用いて、学力やSESをコントロールした場合とコントロールしない場合の係数の推定値の違いを確認した
 - 棒グラフはカテゴリ7・8の質問回答の係数の推定値を表す
 - 例えば質問36への回答が4件法で1向上すると、因子得点1のスコアが0.3標準偏差強上昇することがわかる
- 学力やSESのコントロールによって、推定値はほとんど変わらないことがわかる
 - 学力やSESの水準が同程度の生徒を比較しても推定値が大きくは変わらないことから、学力やSESによる交絡が深刻なバイアスには繋がっていない可能性を示唆している
 - サンプルサイズが非常に大きいため推定結果はいずれも統計的に有意である（※）



※いずれもp値≒0となっている。推定値、N数、t値、p値については、Appendixにて表を掲載している

分析②：SESによる層別の回帰分析（R5中学校）

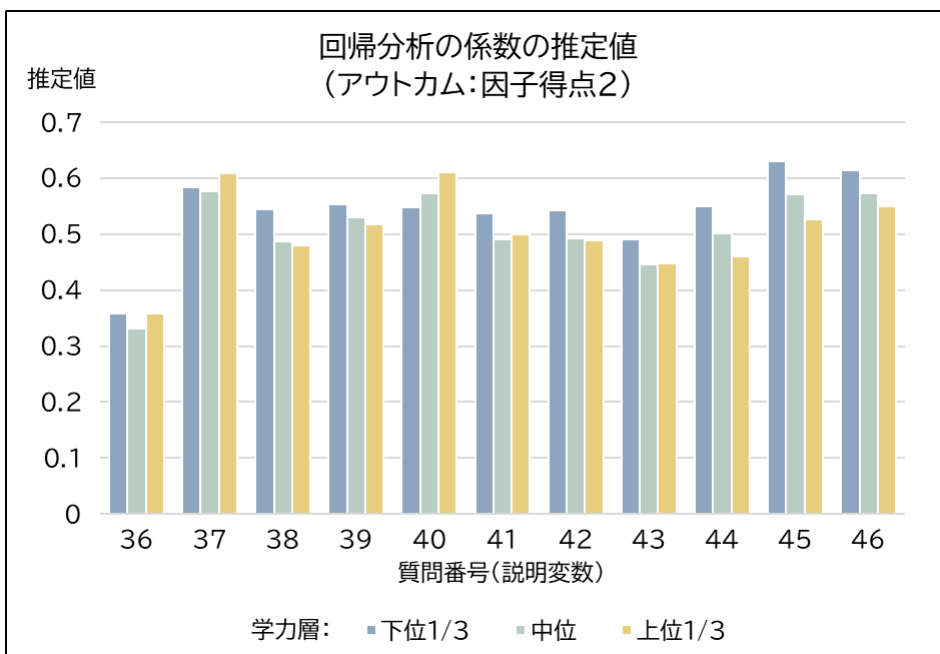
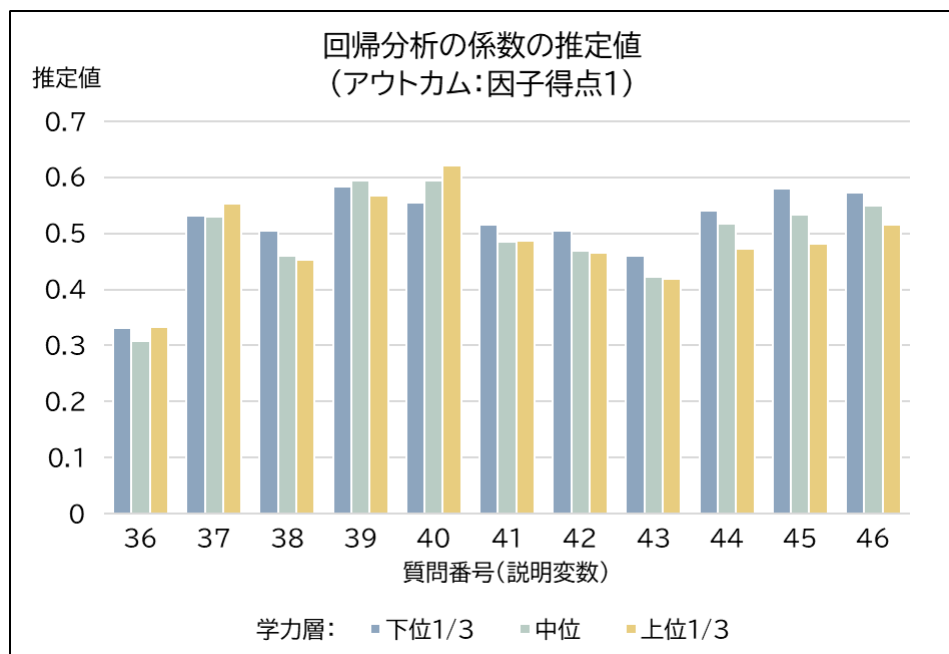
- SES（自宅の蔵書数）の水準でサンプルを分割したうえで、前述のモデルを用いた回帰分析を実施した
 - 都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別をコントロールしている
 - 棒グラフはカテゴリ7・8の質問回答の係数の推定値を表す
 - 例えば質問36への回答が4件法で1向上すると、因子得点1のスコアが0.3標準偏差強上昇することがわかる
- 自宅の蔵書数による推定値の多少の変動はみられるものの、基本的にどの層に対しても推定値は比較的高い値を示している
 - 「主・対・深」や「総合・学活・道徳」は、生徒のSESの水準に関わらず比較的有效である可能性が示唆される
 - サンプルサイズが非常に大きいため推定結果はいずれも統計的に有意である（※）



※いずれもp値=0となっている。推定値、N数、t値、p値については、Appendixにて表を掲載している

分析③：学力による層別の回帰分析（R5中学校）

- 学力の水準でサンプルを分割したうえで、前述のモデルを用いた回帰分析を実施した
 - 都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別をコントロールしている
 - 棒グラフはカテゴリ7・8の質問回答の係数の推定値を表す
 - 例えば質問36への回答が4件法で1向上すると、因子得点1のスコアが0.3標準偏差強上昇することがわかる
- 基本的には、どの層に対しても推定値は比較的高い値を示している
 - カテゴリ8の質問（質問43～質問46）については、低学力層の方が係数がわずかに大きい傾向にあり、「総合・学活・道徳」が低学力層に対して比較的有效である可能性が示唆される
 - 逆に、質問40「話し合いにより考えを深め広げた」については、高学力層の方が係数がわずかに大きい傾向にある
 - サンプルサイズが非常に大きいため推定結果はいずれも統計的に有意である（※）



※いずれもp値=0となっている。推定値、N数、t値、p値については、Appendixにて表を掲載している

4. 令和4年度調査と令和5年度調査の比較による分析

分析方針

- 令和4年度調査と令和5年度調査を使用して、カテゴリ7・8の取組状況に進展があった学校とそうでない学校でグループを分け、それぞれのグループでカテゴリ2の自己有用感等のスコアの変化量に差が見られるかを分析した。分析の手順は以下の通り。
 1. 学校のグルーピング
 - ① R4とR5のそれぞれについて、児童生徒ごとにカテゴリ7・8の回答の合計スコアを算出する
 - ② R4とR5のそれぞれについて、学校ごとに①の合計スコアの平均値を算出する
 - ③ ②の平均値について、学校ごとにR4とR5の差をとり、プラスの変化があった学校とマイナスの変化があった学校にグループを分ける
 2. カテゴリ2の自己有用感等のスコアを集約する
 - ④ R5の回答データについて、カテゴリ2の質問項目に対して主成分分析を行い、児童生徒ごとにカテゴリ2の質問項目の回答を1次元に集約した合成得点を算出する（※1、※2、※3）
 - ⑤ ④の主成分分析で得られた主成分負荷量をR4データに適用し、R5と同じウェイトを用いた合成得点を算出する
 3. カテゴリ2の自己有用感等のスコアの変化量を算出する
 - ⑥ ③で設定された学校グループごとに、④で算出したR5合成得点の平均値と⑤で算出したR4合成得点の平均値を算出し（※4）、その差をとることで、R4からR5にかけての変化量を算出する
 - ⑦ ③でプラスの変化があった学校と、マイナスの変化があった学校で、⑥の変化量に差があるかを確認する

■ なお、本章の分析ではR4の小学校6年生（中学校3年生）とR5の小学校6年生（中学校3年生）とを比較しているため、比較対象となるサンプルが異なっている点には注意が必要である

（※1）前章までは因子得点1と因子得点2に分けて分析していたが、2つの因子得点の間でほとんど違いが見られないため、本章では1次元に集約したスコアを用いて分析を行った

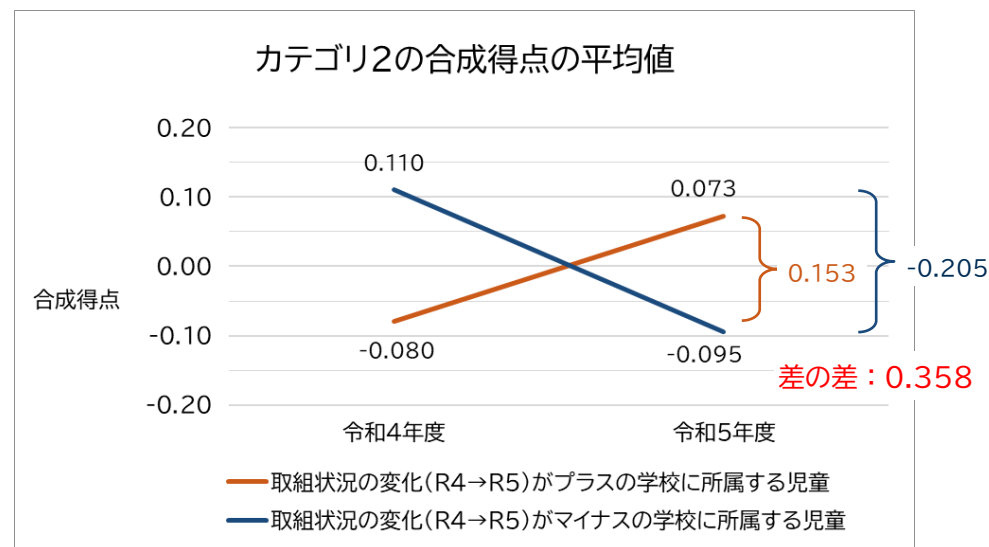
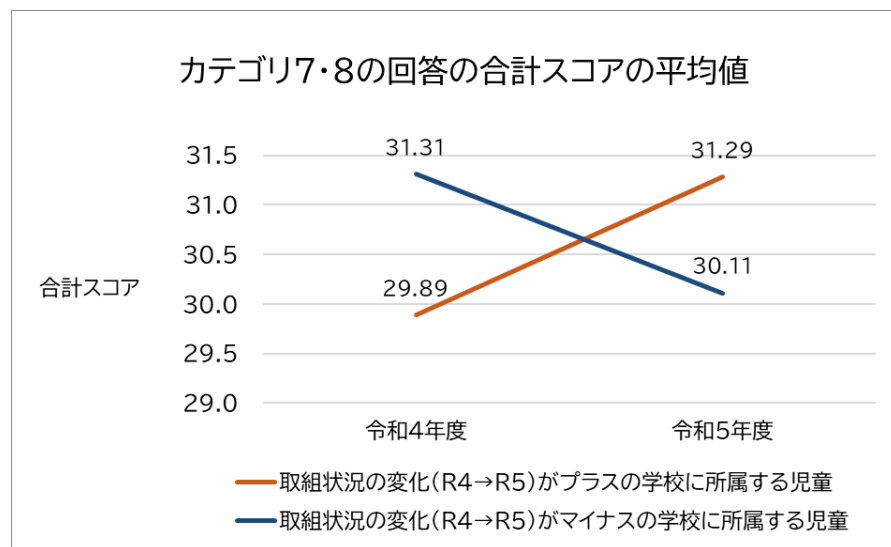
（※2）時系列比較のため、R4とR5で共通の質問項目のみを分析の対象とした（R5の質問6、14、15はR4にはないため、対象外とした）

（※3）合成得点は、平均0、分散1に標準化されている

（※4）プラスの変化があった学校に所属する児童生徒の平均値と、マイナスの変化があった学校に所属する児童生徒の平均値をそれぞれ算出する

R4とR5の児童の取組状況の変化による分析（小学校）

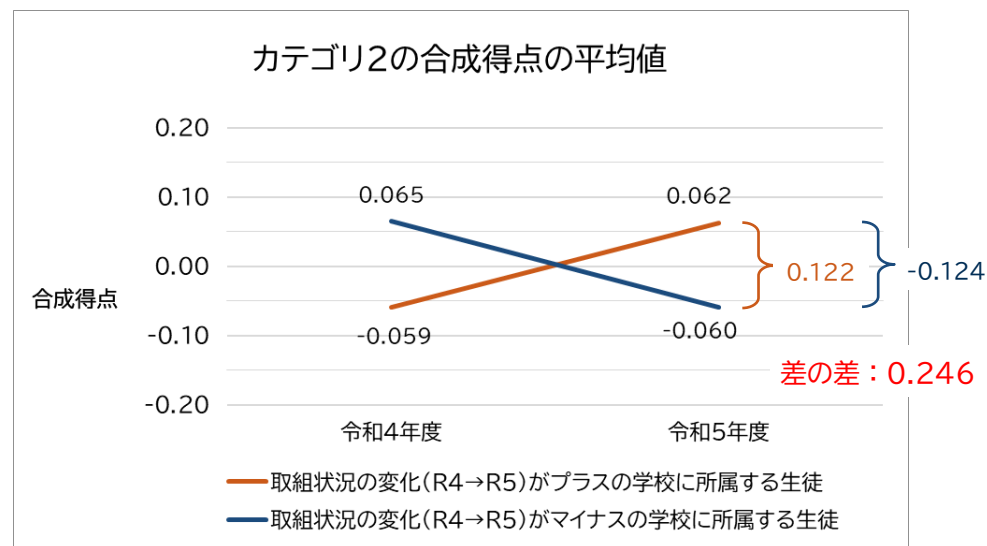
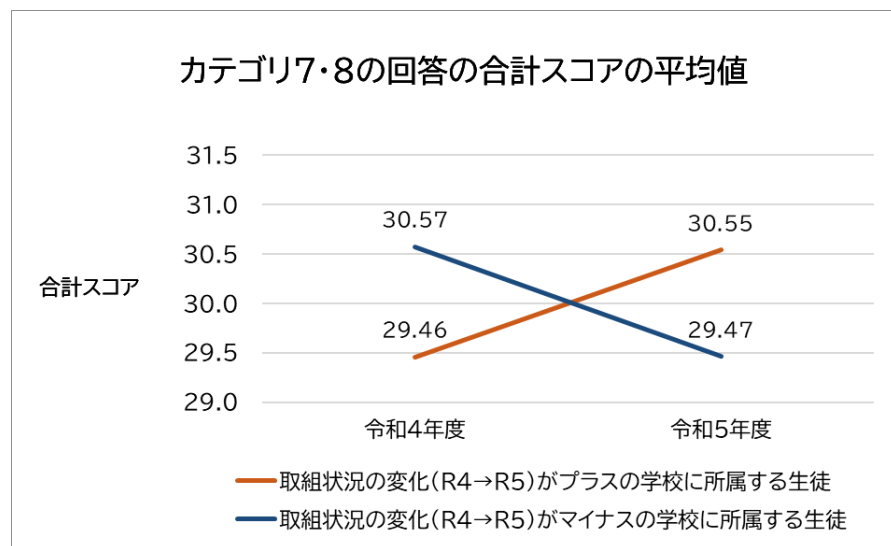
- 左下図は、カテゴリ7・8の合計スコアのR4からR5への変化によって学校をグループ分けし、グループごとの児童単位の平均値を図示したものである
 - プラスの変化があった学校はマイナスの変化があった学校に比べてR4時点のスコアが低く、R5時点ではそれが逆転していることがわかる
 - ただし、このような変化がみられる背景には、以下のような理由も考えられることに留意が必要
 - 取組状況が改善する余地のある学校はもとの取組状況のスコアが低い学校であり（逆も同様）、平均に回帰した可能性（有識者委員からも指摘あり）
 - 令和4年度の小学6年生と令和5年度の小学6年生の間でランダムな変動が発生した可能性
- 右下図は、プラスの変化があった学校とマイナスの変化があった学校のそれぞれについてカテゴリ2の合成得点の児童単位の平均値を算出し、その変化量の差を図示したものである。
 - プラスの学校はマイナスの学校に比べて、カテゴリ2の合成得点が0.36標準偏差分だけ増加している
 - カテゴリ7・8の回答とカテゴリ2の回答の相関が反映され、左下図と同様の変化となっていることがわかる



※カテゴリ7・8の合計スコアの変動の分布や、各平均値の算出に使用した児童生徒数については、Appendixにて表を掲載している

R4とR5の生徒の取組状況の変化による分析（中学校）

- 左下図は、カテゴリ7・8の合計スコアのR4からR5への変化によって学校をグループ分けし、グループごとの生徒単位の平均値を図示したものである
 - プラスの変化があった学校はマイナスの変化があった学校に比べてR4時点のスコアが低く、R5時点ではそれが逆転していることがわかる
 - ただし、このような変化がみられる背景には、以下のような理由も考えられることに留意が必要
 - 取組状況が改善する余地のある学校はもとの取組状況のスコアが低い学校であり（逆も同様）、平均に回帰した可能性（有識者委員からも指摘あり）
 - 令和4年度の中学3年生と令和5年度の中学3年生の間でランダムな変動が発生した可能性
- 右下図は、プラスの変化があった学校とマイナスの変化があった学校のそれぞれについてカテゴリ2の合成得点の生徒単位の平均値を算出し、その変化量の差を図示したものである。
 - プラスの学校はマイナスの学校に比べて、カテゴリ2の合成得点が0.25標準偏差分だけ増加している
 - カテゴリ7・8の回答とカテゴリ2の回答の相関が反映され、左下図と同様の変化となっていることがわかる



※カテゴリ7・8の合計スコアの変動の分布や、各平均値の算出に使用した児童生徒数については、Appendixにて表を掲載している

5. まとめ

まとめ

1. 小学校・中学校ともに、児童生徒の「主・対・深」「総合・学活・道徳」の取組状況と「自己有用感等」の間には正の相関が見られる
 - 「自己有用感等」のうち、特に質問13「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」や質問8「人が困っているときは、進んで助けている」は相対的に高い相関が見られる
 - ただし、「主・対・深」「総合・学活・道徳」の取組状況ごとの相関係数の違いは大きくなく、「主・対・深」「総合・学活・道徳」の質問項目間の類似性が高いことが影響している可能性がある
2. 小学校、中学校ともに、児童生徒の「主・対・深」「総合・学活・道徳」に関係する取り組みはSES・学力の高低に関わらず、いずれの層の「自己有用感等」にも一定程度有効な可能性がある。また、SESや学力による交絡は深刻なバイアスに繋がっていない
3. 令和4年度と令和5年度の比較では、児童生徒の「主・対・深」「総合・学活・道徳」の取組状況の変化に応じて「自己有用感等」も変化した可能性が考えられる

【解釈の留意点】

- なお、これらの分析結果は、児童生徒の「自己有用感等」の回答と児童生徒の「主・対・深」「総合・学活・道徳」の取組状況の回答との間の相関関係を多面的に検証した結果である
- いずれの分析においても、以下のような観測不可能な要因の影響を取り除くことはできていないという点には留意が必要である
 - 児童生徒固有の性向（全体的に高め回答する児童生徒と全体的に低めに回答する児童生徒がいる可能性）
 - 教員の指導状況（児童生徒の「自己有用感等」と児童生徒の「主・対・深」「総合・学活・道徳」の取組状況の回答をどちらも高めるような指導を行う教員がいる可能性）

Appendix

各推定の結果の表

3. SESや学力を統制した分析：分析①（R5小学校）

(29頁)

アウトカム：因子得点1

説明変数	コントロール	推定値	t値	p値	N
32	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.363	336.14	0	962,164
	①+学力	0.351	313.56	0	952,530
	①+SES	0.365	333.50	0	961,869
33	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.579	444.76	0	986,001
	①+学力	0.572	421.85	0	975,490
	①+SES	0.582	442.11	0	985,673
34	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.527	421.49	0	985,979
	①+学力	0.513	399.58	0	975,471
	①+SES	0.528	418.36	0	985,654
35	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.616	467.63	0	986,039
	①+学力	0.602	448.53	0	975,531
	①+SES	0.613	463.65	0	985,717
36	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.618	497.51	0	977,196
	①+学力	0.606	477.64	0	967,113
	①+SES	0.618	493.83	0	976,889
37	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.564	451.76	0	986,011
	①+学力	0.553	430.03	0	975,500
	①+SES	0.564	448.37	0	985,688
38	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.534	414.50	0	986,010
	①+学力	0.519	393.34	0	975,493
	①+SES	0.534	410.84	0	985,685
39	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.470	381.10	0	986,186
	①+学力	0.454	358.53	0	975,676
	①+SES	0.470	377.31	0	985,859
40	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.483	381.62	0	985,837
	①+学力	0.467	366.53	0	975,332
	①+SES	0.480	378.17	0	985,513
41	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.542	438.37	0	985,860
	①+学力	0.528	427.17	0	975,352
	①+SES	0.539	435.08	0	985,540
42	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.538	411.09	0	985,748
	①+学力	0.522	396.73	0	975,236
	①+SES	0.534	407.68	0	985,424

アウトカム：因子得点2

説明変数	コントロール	推定値	t値	p値	N
32	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.388	356.82	0	962,164
	①+学力	0.379	337.66	0	952,530
	①+SES	0.388	351.72	0	961,869
33	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.622	455.44	0	986,001
	①+学力	0.621	439.08	0	975,490
	①+SES	0.624	450.74	0	985,673
34	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.564	433.55	0	985,979
	①+学力	0.554	416.67	0	975,471
	①+SES	0.564	428.52	0	985,654
35	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.584	415.83	0	986,039
	①+学力	0.569	400.59	0	975,531
	①+SES	0.579	411.84	0	985,717
36	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.603	459.09	0	977,196
	①+学力	0.592	442.35	0	967,113
	①+SES	0.601	453.83	0	976,889
37	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.588	446.93	0	986,011
	①+学力	0.579	430.21	0	975,500
	①+SES	0.586	441.94	0	985,688
38	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.571	418.66	0	986,010
	①+学力	0.559	402.35	0	975,493
	①+SES	0.570	413.60	0	985,685
39	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.497	387.20	0	986,186
	①+学力	0.483	369.32	0	975,676
	①+SES	0.495	381.71	0	985,859
40	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.480	363.86	0	985,837
	①+学力	0.464	351.79	0	975,332
	①+SES	0.476	359.95	0	985,513
41	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.586	455.29	0	985,860
	①+学力	0.574	446.41	0	975,352
	①+SES	0.583	451.25	0	985,540
42	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.564	407.28	0	985,748
	①+学力	0.549	395.76	0	975,236
	①+SES	0.559	403.57	0	985,424

3. SESや学力を統制した分析：分析②（R5小学校）

(30頁)

アウトカム	説明変数	自宅の蔵書数	推定値	t値	p値	N
32		0~25冊	0.358	193.43	0	314,891
		26~100冊	0.361	194.07	0	321,627
		101冊~	0.378	191.31	0	325,351
33		0~25冊	0.573	259.65	0	326,107
		26~100冊	0.576	256.06	0	328,148
		101冊~	0.600	252.43	0	331,418
34		0~25冊	0.525	246.64	0	326,108
		26~100冊	0.520	241.11	0	328,129
		101冊~	0.542	239.04	0	331,417
35		0~25冊	0.600	265.55	0	326,146
		26~100冊	0.620	269.54	0	328,150
		101冊~	0.624	271.26	0	331,421
36		0~25冊	0.580	281.22	0	322,451
		26~100冊	0.617	286.69	0	325,766
		101冊~	0.663	291.30	0	328,672
37		0~25冊	0.564	265.40	0	326,110
	因子得点1	26~100冊	0.559	259.58	0	328,154
		101冊~	0.572	254.25	0	331,424
38		0~25冊	0.527	245.03	0	326,114
		26~100冊	0.526	235.52	0	328,141
		101冊~	0.555	233.69	0	331,430
39		0~25冊	0.469	224.61	0	326,197
		26~100冊	0.461	217.46	0	328,199
		101冊~	0.483	213.56	0	331,463
40		0~25冊	0.485	223.43	0	326,061
		26~100冊	0.471	216.00	0	328,080
		101冊~	0.488	217.33	0	331,372
41		0~25冊	0.544	255.69	0	326,071
		26~100冊	0.531	250.39	0	328,084
		101冊~	0.546	249.38	0	331,385
42		0~25冊	0.534	240.57	0	326,057
		26~100冊	0.523	231.84	0	328,056
		101冊~	0.550	235.76	0	331,311

アウトカム	説明変数	自宅の蔵書数	推定値	t値	p値	N
32		0~25冊	0.381	202.98	0	314,891
		26~100冊	0.380	206.14	0	321,627
		101冊~	0.404	202.23	0	325,351
33		0~25冊	0.612	261.46	0	326,107
		26~100冊	0.614	263.41	0	328,148
		101冊~	0.649	259.30	0	331,418
34		0~25冊	0.561	249.88	0	326,108
		26~100冊	0.549	248.93	0	328,129
		101冊~	0.584	246.59	0	331,417
35		0~25冊	0.582	238.87	0	326,146
		26~100冊	0.576	238.87	0	328,150
		101冊~	0.584	238.70	0	331,421
36		0~25冊	0.572	259.94	0	322,451
		26~100冊	0.595	265.18	0	325,766
		101冊~	0.642	265.04	0	328,672
37		0~25冊	0.586	258.51	0	326,110
	因子得点2	26~100冊	0.574	257.47	0	328,154
		101冊~	0.600	252.91	0	331,424
38		0~25冊	0.563	244.96	0	326,114
		26~100冊	0.556	238.98	0	328,141
		101冊~	0.595	235.84	0	331,430
39		0~25冊	0.495	225.39	0	326,197
		26~100冊	0.481	221.87	0	328,199
		101冊~	0.512	216.85	0	331,463
40		0~25冊	0.491	213.31	0	326,061
		26~100冊	0.461	206.46	0	328,080
		101冊~	0.480	205.79	0	331,372
41		0~25冊	0.592	263.13	0	326,071
		26~100冊	0.568	261.39	0	328,084
		101冊~	0.591	259.54	0	331,385
42		0~25冊	0.565	237.98	0	326,057
		26~100冊	0.542	231.01	0	328,056
		101冊~	0.575	232.34	0	331,311

3. SESや学力を統制した分析：分析③（R5小学校）

(31頁)

アウトカム	説明変数	学力層	推定値	t値	p値	N
	32	下位	0.367	186.18	0	307,189
		中位	0.348	184.01	0	315,491
		上位	0.350	181.25	0	329,850
	33	下位	0.587	258.70	0	321,535
		中位	0.564	242.57	0	320,707
		上位	0.576	239.14	0	333,248
	34	下位	0.549	249.58	0	321,488
		中位	0.502	229.14	0	320,721
		上位	0.498	221.11	0	333,262
	35	下位	0.598	263.67	0	321,505
		中位	0.620	261.55	0	320,750
		上位	0.603	260.32	0	333,276
	36	下位	0.572	271.69	0	316,822
		中位	0.609	278.36	0	318,701
		上位	0.661	291.39	0	331,590
因子得点1	37	下位	0.581	266.16	0	321,498
		中位	0.544	247.14	0	320,736
		上位	0.541	239.51	0	333,266
	38	下位	0.541	247.23	0	321,513
		中位	0.508	223.78	0	320,728
		上位	0.514	216.97	0	333,252
	39	下位	0.492	228.57	0	321,605
		中位	0.437	203.59	0	320,781
		上位	0.442	196.24	0	333,290
	40	下位	0.513	231.01	0	321,447
		中位	0.460	207.85	0	320,679
		上位	0.435	201.15	0	333,206
	41	下位	0.573	262.73	0	321,451
		中位	0.522	242.51	0	320,682
		上位	0.497	238.73	0	333,219
	42	下位	0.546	243.90	0	321,394
		中位	0.515	225.17	0	320,658
		上位	0.513	223.33	0	333,184

アウトカム	説明変数	学力層	推定値	t値	p値	N
	32	下位	0.395	196.05	0	307,189
		中位	0.373	199.38	0	315,491
		上位	0.382	199.02	0	329,850
	33	下位	0.634	261.82	0	321,535
		中位	0.608	255.59	0	320,707
		上位	0.634	255.61	0	333,248
	34	下位	0.592	253.59	0	321,488
		中位	0.537	240.80	0	320,721
		上位	0.543	236.56	0	333,262
	35	下位	0.594	241.89	0	321,505
		中位	0.578	233.87	0	320,750
		上位	0.546	226.02	0	333,276
	36	下位	0.569	251.75	0	316,822
		中位	0.587	258.39	0	318,701
		上位	0.642	270.46	0	331,590
因子得点2	37	下位	0.607	259.16	0	321,498
		中位	0.566	250.07	0	320,736
		上位	0.574	245.50	0	333,266
	38	下位	0.582	247.17	0	321,513
		中位	0.545	231.57	0	320,728
		上位	0.557	226.10	0	333,252
	39	下位	0.526	230.56	0	321,605
		中位	0.463	211.79	0	320,781
		上位	0.473	205.87	0	333,290
	40	下位	0.528	222.47	0	321,447
		中位	0.451	199.84	0	320,679
		上位	0.420	191.95	0	333,206
	41	下位	0.624	267.20	0	321,451
		中位	0.562	255.84	0	320,682
		上位	0.541	255.07	0	333,219
	42	下位	0.583	241.51	0	321,394
		中位	0.536	225.47	0	320,658
		上位	0.534	223.85	0	333,184

3. SESや学力を統制した分析：分析①（R5中学校）

(32頁)

アウトカム：因子得点1

説明変数	コントロール	推定値	t値	p値	N
36	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.329	289.28	0	879,067
	①+学力	0.322	270.53	0	871,308
	①+SES	0.334	290.72	0	872,826
37	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.526	384.64	0	904,423
	①+学力	0.538	368.94	0	895,705
	①+SES	0.531	385.76	0	897,968
38	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.477	371.91	0	903,799
	①+学力	0.473	353.97	0	895,101
	①+SES	0.481	372.31	0	897,393
39	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.588	438.20	0	903,330
	①+学力	0.580	423.30	0	894,641
	①+SES	0.587	436.20	0	896,956
40	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.587	461.58	0	887,991
	①+学力	0.585	448.55	0	880,001
	①+SES	0.590	461.48	0	881,837
41	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.493	388.20	0	901,337
	①+学力	0.496	371.92	0	892,695
	①+SES	0.496	388.03	0	895,125
42	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.487	383.44	0	900,243
	①+学力	0.480	366.60	0	891,618
	①+SES	0.491	384.29	0	894,061
43	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.443	352.37	0	904,328
	①+学力	0.433	333.95	0	895,620
	①+SES	0.445	351.98	0	897,863
44	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.519	391.73	0	904,127
	①+学力	0.508	381.41	0	895,430
	①+SES	0.519	389.69	0	897,674
45	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.540	432.40	0	903,078
	①+学力	0.530	424.74	0	894,400
	①+SES	0.539	430.47	0	896,677
46	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.558	394.23	0	902,670
	①+学力	0.546	381.41	0	894,005
	①+SES	0.557	392.24	0	896,309

アウトカム：因子得点2

説明変数	コントロール	推定値	t値	p値	N
36	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.344	298.86	0	879,067
	①+学力	0.348	289.97	0	871,308
	①+SES	0.349	300.26	0	872,826
37	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.561	389.65	0	904,423
	①+学力	0.592	389.08	0	895,705
	①+SES	0.567	390.60	0	897,968
38	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.499	374.41	0	903,799
	①+学力	0.506	366.92	0	895,101
	①+SES	0.503	374.70	0	897,393
39	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.537	376.08	0	903,330
	①+学力	0.533	366.86	0	894,641
	①+SES	0.535	374.18	0	896,956
40	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.569	421.27	0	887,991
	①+学力	0.574	415.06	0	880,001
	①+SES	0.571	420.76	0	881,837
41	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.496	373.04	0	901,337
	①+学力	0.511	367.70	0	892,695
	①+SES	0.498	372.69	0	895,125
42	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.507	381.93	0	900,243
	①+学力	0.510	374.75	0	891,618
	①+SES	0.511	382.58	0	894,061
43	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.462	354.14	0	904,328
	①+学力	0.462	344.34	0	895,620
	①+SES	0.464	353.71	0	897,863
44	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.512	368.16	0	904,127
	①+学力	0.504	361.11	0	895,430
	①+SES	0.510	366.41	0	897,674
45	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.582	449.68	0	903,078
	①+学力	0.575	444.03	0	894,400
	①+SES	0.581	448.13	0	896,677
46	①都道府県・地域規模・学校の学級数規模・性別	0.587	388.67	0	902,670
	①+学力	0.580	380.42	0	894,005
	①+SES	0.585	386.83	0	896,309

3. SESや学力を統制した分析：分析②（R5中学校）

(33頁)

アウトカム	説明変数	自宅の蔵書数	推定値	t値	p値	N
36		0~25冊	0.328	174.52	0	303,529
		26~100冊	0.327	160.95	0	275,793
		101冊~	0.346	167.81	0	293,504
37		0~25冊	0.520	230.73	0	314,626
		26~100冊	0.529	215.66	0	282,619
		101冊~	0.547	222.05	0	300,723
38		0~25冊	0.478	223.14	0	314,375
		26~100冊	0.475	207.96	0	282,435
		101冊~	0.490	214.03	0	300,583
39		0~25冊	0.582	256.98	0	314,202
		26~100冊	0.591	247.05	0	282,290
		101冊~	0.591	252.85	0	300,464
40		0~25冊	0.563	269.64	0	307,823
		26~100冊	0.591	259.75	0	278,368
		101冊~	0.619	271.05	0	295,646
41	因子得点1	0~25冊	0.495	233.48	0	313,399
		26~100冊	0.491	217.85	0	281,780
		101冊~	0.501	221.33	0	299,946
42		0~25冊	0.486	229.27	0	312,940
		26~100冊	0.486	214.59	0	281,495
		101冊~	0.500	222.05	0	299,626
43		0~25冊	0.445	214.34	0	314,626
		26~100冊	0.434	193.97	0	282,571
		101冊~	0.456	201.61	0	300,666
44		0~25冊	0.522	235.19	0	314,534
		26~100冊	0.511	217.12	0	282,525
		101冊~	0.523	223.28	0	300,615
45		0~25冊	0.550	260.96	0	314,118
		26~100冊	0.531	239.52	0	282,263
		101冊~	0.536	245.67	0	300,296
46		0~25冊	0.557	236.72	0	313,956
		26~100冊	0.553	219.23	0	282,133
		101冊~	0.563	224.35	0	300,220

アウトカム	説明変数	自宅の蔵書数	推定値	t値	p値	N
36		0~25冊	0.343	181.54	0	303,529
		26~100冊	0.343	168.41	0	275,793
		101冊~	0.362	170.18	0	293,504
37		0~25冊	0.555	235.17	0	314,626
		26~100冊	0.560	220.25	0	282,619
		101冊~	0.586	221.84	0	300,723
38		0~25冊	0.500	225.82	0	314,375
		26~100冊	0.491	210.01	0	282,435
		101冊~	0.516	213.85	0	300,583
39		0~25冊	0.537	223.12	0	314,202
		26~100冊	0.530	211.19	0	282,290
		101冊~	0.541	215.46	0	300,464
40		0~25冊	0.547	249.06	0	307,823
		26~100冊	0.566	236.25	0	278,368
		101冊~	0.604	244.53	0	295,646
41	因子得点2	0~25冊	0.499	225.28	0	313,399
		26~100冊	0.488	209.72	0	281,780
		101冊~	0.509	211.58	0	299,946
42		0~25冊	0.507	229.93	0	312,940
		26~100冊	0.500	214.21	0	281,495
		101冊~	0.524	219.17	0	299,626
43		0~25冊	0.463	215.64	0	314,626
		26~100冊	0.448	195.82	0	282,571
		101冊~	0.481	201.80	0	300,666
44		0~25冊	0.518	222.21	0	314,534
		26~100冊	0.498	205.01	0	282,525
		101冊~	0.516	208.31	0	300,615
45		0~25冊	0.589	269.92	0	314,118
		26~100冊	0.570	251.31	0	282,263
		101冊~	0.585	255.70	0	300,296
46		0~25冊	0.584	233.03	0	313,956
		26~100冊	0.576	217.02	0	282,133
		101冊~	0.597	221.15	0	300,220

3. SESや学力を統制した分析：分析③（R5中学校）

(34頁)

アウトカム	説明変数	学力層	推定値	t値	p値	N
36		下位	0.331	161.36	0	279,475
		中位	0.308	153.61	0	294,116
		上位	0.333	159.92	0	297,717
37		下位	0.531	223.36	0	293,830
		中位	0.530	212.03	0	300,067
		上位	0.553	212.02	0	301,808
38		下位	0.505	219.08	0	293,603
		中位	0.460	200.51	0	299,842
		上位	0.453	199.07	0	301,656
39		下位	0.584	249.02	0	293,401
		中位	0.594	248.15	0	299,713
		上位	0.568	242.68	0	301,527
40		下位	0.555	259.19	0	285,092
		中位	0.595	263.17	0	296,135
		上位	0.621	264.24	0	298,774
41	因子得点1	下位	0.516	229.05	0	292,567
		中位	0.484	212.11	0	299,115
		上位	0.487	208.38	0	301,013
42		下位	0.506	224.92	0	292,030
		中位	0.469	208.49	0	298,803
		上位	0.466	206.99	0	300,785
43		下位	0.460	209.72	0	293,765
		中位	0.422	189.77	0	300,043
		上位	0.418	184.03	0	301,812
44		下位	0.540	231.01	0	293,654
		中位	0.518	222.56	0	300,009
		上位	0.473	212.57	0	301,767
45		下位	0.580	260.12	0	293,236
		中位	0.533	244.92	0	299,651
		上位	0.482	234.61	0	301,513
46		下位	0.573	239.65	0	293,114
		中位	0.550	219.64	0	299,504
		上位	0.516	205.40	0	301,387

アウトカム	説明変数	学力層	推定値	t値	p値	N
36		下位	0.358	172.31	0	279,475
		中位	0.332	167.09	0	294,116
		上位	0.357	167.12	0	297,717
37		下位	0.583	233.20	0	293,830
		中位	0.577	224.71	0	300,067
		上位	0.608	220.69	0	301,808
38		下位	0.545	226.74	0	293,603
		中位	0.487	209.19	0	299,842
		上位	0.480	202.49	0	301,656
39		下位	0.554	220.56	0	293,401
		中位	0.529	211.00	0	299,713
		上位	0.517	208.20	0	301,527
40		下位	0.547	241.16	0	285,092
		中位	0.573	241.37	0	296,135
		上位	0.611	242.81	0	298,774
41	因子得点2	下位	0.537	227.46	0	292,567
		中位	0.491	209.75	0	299,115
		上位	0.499	202.54	0	301,013
42		下位	0.543	230.54	0	292,030
		中位	0.493	214.10	0	298,803
		上位	0.489	207.41	0	300,785
43		下位	0.490	213.97	0	293,765
		中位	0.446	197.26	0	300,043
		上位	0.448	188.14	0	301,812
44		下位	0.549	220.63	0	293,654
		中位	0.502	209.61	0	300,009
		上位	0.461	199.00	0	301,767
45		下位	0.630	268.41	0	293,236
		中位	0.571	256.44	0	299,651
		上位	0.527	247.35	0	301,513
46		下位	0.614	238.28	0	293,114
		中位	0.573	217.28	0	299,504
		上位	0.549	205.84	0	301,387

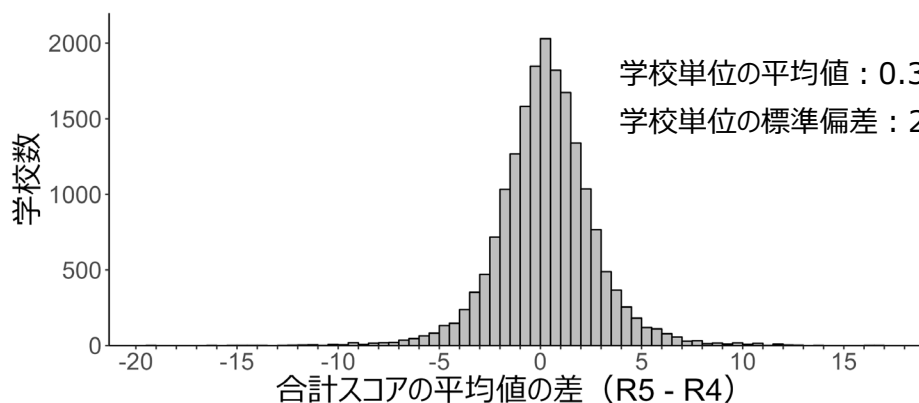
4. 令和4年度調査と令和5年度調査の比較による分析（小学校）

(37頁)

■ カテゴリ7・8の合計スコアの変動

取組状況の変化	児童数		カテゴリ7・8の合計スコアの平均		
	令和4年度	令和5年度	令和4年度	令和5年度	R5-R4
プラスの学校	577,036	570,856	29.892	31.286	1.394
マイナスの学校	428,563	428,280	31.315	30.112	-1.202
差			-1.423	1.173	2.596

学校ごとの平均の差の分布（R5 - R4）



※上記の表では、プラスまたはマイナスの学校に所属している児童の平均値を算出しているが、左図は学校ごとの平均値の差を図示しているため、両者は対応した値ではない

■ カテゴリ2の合成得点の変動

取組状況の変化	児童数		カテゴリ2の合成得点の平均		
	令和4年度	令和5年度	令和4年度	令和5年度	R5-R4
プラスの学校	577,036	570,856	-0.080	0.073	0.153
マイナスの学校	428,563	428,280	0.110	-0.095	-0.205
差			-0.190	0.168	0.358

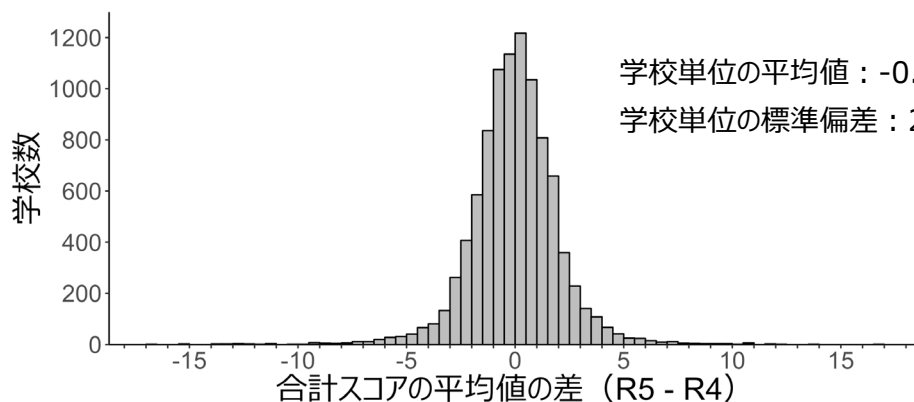
4. 令和4年度調査と令和5年度調査の比較による分析（中学校）

(38頁)

■ カテゴリ7・8の合計スコアの変動

取組状況の変化	生徒数		カテゴリ7・8の合計スコアの平均		
	令和4年度	令和5年度	令和4年度	令和5年度	R5-R4
プラスの学校	472,966	478,871	29.461	30.545	1.085
マイナスの学校	464,443	468,881	30.575	29.469	-1.105
差			-1.114	1.076	2.190

学校ごとの平均の差の分布（R5 - R4）



※上記の表では、プラスまたはマイナスの学校に所属している生徒の平均値を算出しているが、左図は学校ごとの平均値の差を図示しているため、両者は対応した値ではない

■ カテゴリ2の合成得点の変動

取組状況の変化	生徒数		カテゴリ2の合成得点の平均		
	令和4年度	令和5年度	令和4年度	令和5年度	R5-R4
プラスの学校	472,966	478,871	-0.059	0.062	0.122
マイナスの学校	464,443	468,881	0.065	-0.060	-0.124
差			-0.124	0.122	0.246